取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SAI

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS　目次

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- エアコン
- ミラーヒーター
- ワイドビューフロントモニター
- ETC システム
- オーディオ＆ビジュアル
- リヤウインドウデフォッガー
- バックガイドモニター
- クリアランスソナー

1 運転する前に

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

3-2. 収納装備の使い方

1
2
3
4
5
6

3-3. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

外観

ワイパー P. 179
ヘッドライト（ロービーム）
P. 172
ムーンルーフ ＊ P. 93
車幅灯 P. 172
ドアミラー P. 85
ボンネット P. 269
サイド方向指示灯 P. 158
フロント方向指示灯
P. 158
ヘッドライト（ハイビーム）P. 172
フロントフォグライト ＊
P. 175
ヘッドライト（ロービーム）
P. 172

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

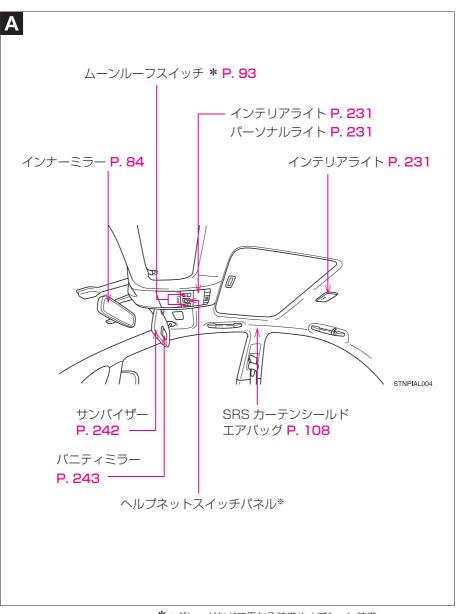
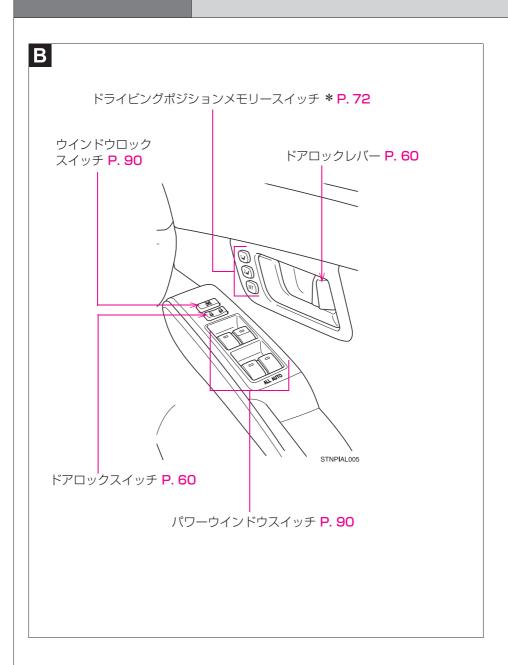
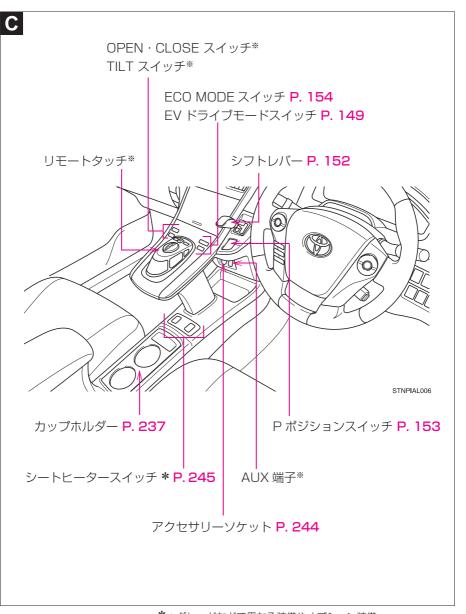
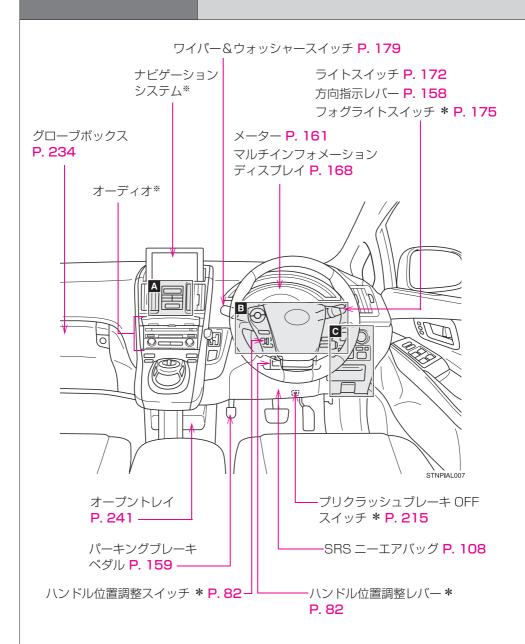
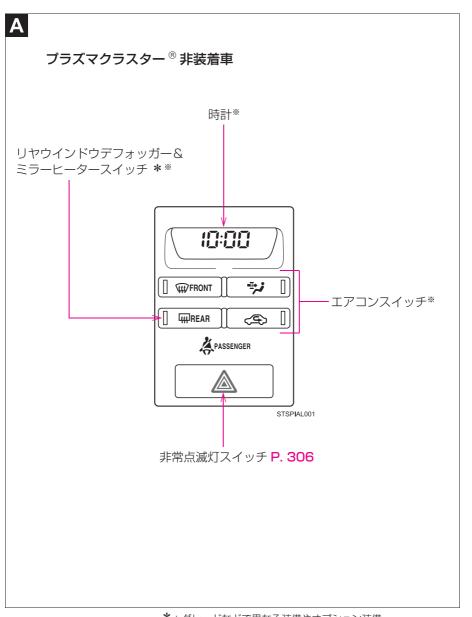
室内

助手席 SRS エアバッグ P. 108
ボトルホルダー P. 239
シートベルト P. 77
ヘッドレスト P. 74
A
B
C
STNPIAL003
フロアマット P. 251
フロントシート P. 67
コンソールボックス P. 235
SRS フロントサイド
エアバッグ P. 108
SRS リヤサイド
エアバッグ ＊ P. 108
アームレスト P. 247
カップホルダー P. 237

A

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

B
ドライビングポジションメモリースイッチ ＊ P. 72
ウインドウロック
スイッチ P. 90
ドアロックレバー P. 60
ALL AUTO
SET
STNPIAL005
ドアロックスイッチ P. 60
パワーウインドウスイッチ P. 90

C

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

インストルメントパネル

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

A
プラズマクラスター® 装着車
時計※
リヤウインドウデフォッガー＆
ミラーヒータースイッチ※
10:00
FRONT
REAR
エアコンスイッチ※
PASSENGER
ION
CLEAN
Ion
STSPIAL002
非常点滅灯スイッチ P. 306

B

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

C
オート電動格納式ミラー非装着車
パワー（イグニッション）
スイッチ P. 144
リヤサンシェード
スイッチ ＊ P. 248
ドアミラースイッチ
P. 85
AFS OFF スイッチ ＊
P. 173
AFS
OFF
POWER
L R
P
VIEW
OFF
STNPIAL016
ボンネット解除レバー P. 269
クリアランスソナー
メインスイッチ ＊※
車両接近通報一時停止スイッチ P. 25
ワイドビューフロント
モニターメインスイッチ ＊※

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ 電気モーター回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- ハイブリッドトランスミッションのシフトポジション
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 126)をお読みください。

■駆動用電池の廃棄について

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

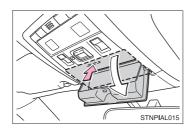
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

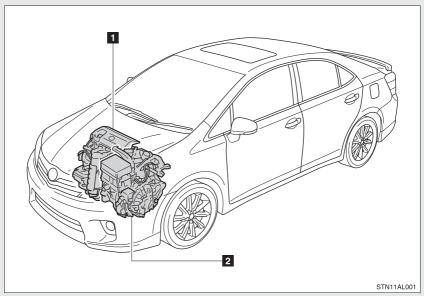
“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

ハイブリッドシステムの特徴

SAI のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

■ 停車時、発進時、低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または B で運転してください。

※ :駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P. 26)

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

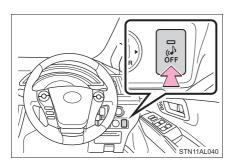
■ **急加速時**

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ **減速時、制動時（回生ブレーキ）**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25 km/h を超えると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、“パワー”スイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。“パワー”スイッチを ON モードにするごとに、車両接近通報装置は ON になります。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトポジションが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●駆動用電池充電時

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に 1 度、約 30 分間または 16 km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 350

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジン始動時や停止時に聞こえるトランスミッション付近からの音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動、停止による振動

●リヤシート横（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音
エコドライブモード時は、通常走行時に比べ、ファンの音が大きくなることがあります。

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

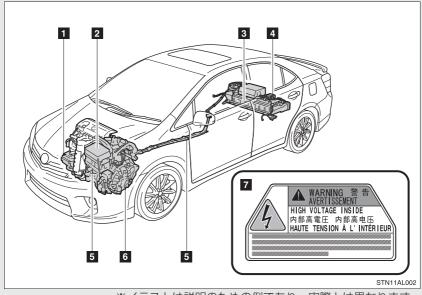
●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理、廃車について

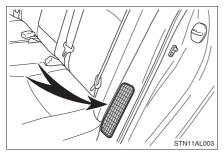
お車のメンテナンスや修理、廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 パワーコントロールユニット
3 駆動用電池・DC ／ DC コンバーター
4 サービスプラグ
5 高電圧ケーブル（オレンジ色）
6 電気モーター
7 コーションラベル

駆動用電池冷却用吸入口

STN11AL003

リヤシート横（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。

STN11AL004

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→P. 319）

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 317）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で 12L 以上です。車両の傾きによって給油量は変わります。）

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

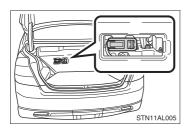
警告

■**高電圧、高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは絶対に行わないでください。

● 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧、高温部位に注意してください。

STN11AL005

● サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグはトヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

■**事故が発生したときは**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● 続発事故防止のため安全な場所に停車する
停車時は、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止します。そのあとブレーキペダルからゆっくり足を離してください。

● 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

● 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

● 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

● 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

⚠ 警告

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。(→P. 309)

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

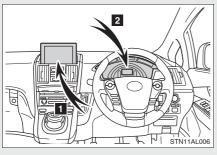
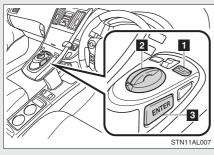
●吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。

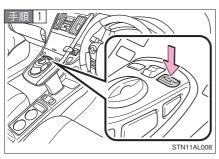
●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エネルギーモニター / 燃費画面 / ESPO 画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイやナビゲーション画面に表示します。

1 ナビゲーション画面
2 マルチインフォメーションディスプレイ

リモートタッチ※
1 メニューボタン
2 リモートタッチノブ
3 ENTER ボタン

エネルギーモニターの見方

ナビゲーション画面表示

リモートタッチのメニューボタンを押しスタート画面を表示させる

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

STN11AL017

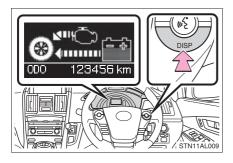
を選択する

STN11AL019

を選択する

燃費画面または ESPO 画面が表示されたときは、エネルギー を選択します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

STN11AL009

“DISP” スイッチを押し、エネルギーモニターを表示させる

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき		
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない ⇔ 多い	少ない ⇔ 多い

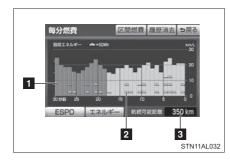
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

毎分燃費の見方

手順 1 リモートタッチのメニューボタンを押し、を選択する

手順 2 情報画面のを選択する

手順 3 エネルギーモニターまたは ESPO 画面が表示されたときは、燃費を選択します。

区間燃費が表示されたときは、毎分燃費を選択します。

1 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

2 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

マーク 1 つが 50Wh です。

3 航続可能距離（→P. 40）

区間燃費の見方

手順 1 リモートタッチのメニューボタンを押し、 を選択する

手順 2 情報画面の を選択する

手順 3 エネルギーモニターまたは ESPO 画面が表示されたときは、［燃費］を選択します。

毎分燃費が表示されたときは、［区間燃費］を選択します。

STN11AL035

1 過去最高燃費

2 通算燃費

マルチインフォメーションディスプレイの通算平均燃費をリセットするごとの平均燃費を表示します。(→P. 168)

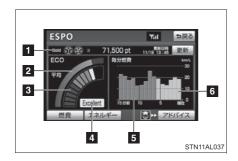
リセット時の通算平均燃費値が過去最高燃費を上まわっていた場合、過去最高燃費が更新されます。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方

手順 1 リモートタッチのメニューボタンを押し、 を選択する

手順 2 情報画面の を選択する

手順 3 エネルギーモニターまたは燃費画面が表示されたときは、［ESPO］を選択します。

1 ステータス／ポイント表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をG-BOOKセンターに送信し、計算されたポイントやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

2 エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

3 エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

4 エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じてGood・Excellentが表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

5 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

- 今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

6 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

※：G-BOOKオンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

■ 更新スイッチ／アドバイススイッチについて

STN11AL038

1 更新スイッチ※

走行情報などを G-BOOK センターへ送信するときに使用します。

2 アドバイススイッチ

- 診断アイコンが表示されている場合は、ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- 診断アイコンが表示されていない場合は、エコ運転や環境に関する豆知識が表示されます。

3 診断アイコン

※：G-BOOKオンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

知識

■燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で 履歴消去 を選択すると、平均燃費、エネルギー回収量がリセットされ、0 にもどります。

区間燃費画面で 履歴消去 を選択すると、通算燃費と過去最高燃費がリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費等とは一致しないことがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P. 154）

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P. 163）

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物

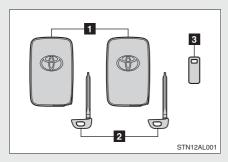
重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えている時は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

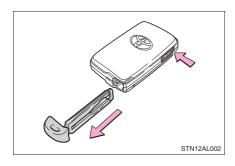
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 47）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 58）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 348）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 347）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

⚠ 注意

■**キーを携帯するときは**

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■**スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは**

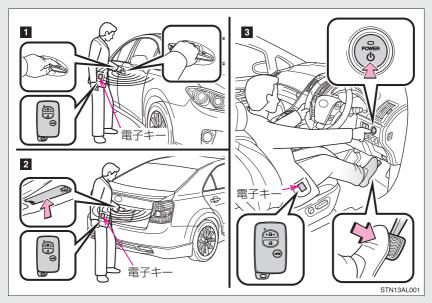
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■**キーを紛失したときは**

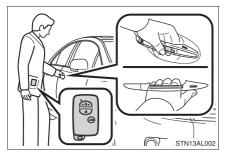
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。

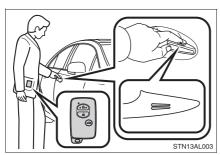
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを施錠・解錠する (→P. 48)
2 トランクを解錠する (→P. 48)
3 ハイブリッドシステムを始動する (→P. 144)

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

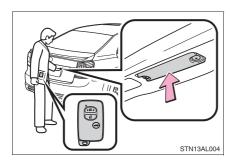
STN13AL002

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

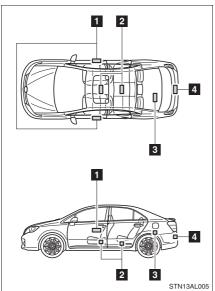
施錠操作後３秒間は解錠できません。

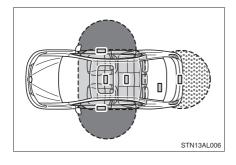
STN13AL003

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

トランクの解錠

STN13AL004

トランクオープンスイッチを押して解錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
3 トランク内アンテナ
4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

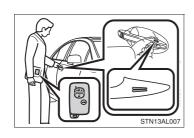
：ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 319)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と10秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“パワー”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2 m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

●１４日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 348）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤ や ＤＶＤ などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡ など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・オープントレイ・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■オートアラームについて

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 103)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 348

●ハイブリッドシステムの始動：→P. 349

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 51）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 298

■解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

■トヨタ販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。

（カスタマイズ一覧 →P. 371）

⚠ 警告

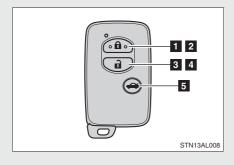
■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 49）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

2 ドアガラスとムーンルーフを閉める（押し続ける）*

3 全ドアを解錠する

4 ドアガラスとムーンルーフを開く（押し続ける）*

5 トランクを解錠する（押し続ける）

＊：トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■作動の合図

ドア　　：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 51

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 103）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 52

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠・解錠 →P. 348

■電池の消耗について

→P. 56

■電池が切れたときは

→P. 298

■トヨタ販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

ドア

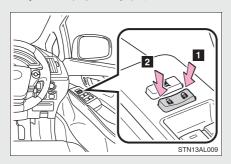
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

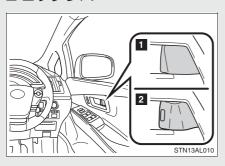
→P. 47

■ ワイヤレス機能

→P. 58

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

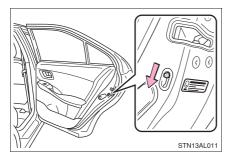
キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 348)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■トヨタ販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 371)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

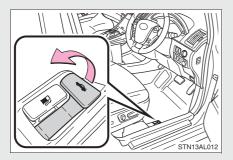
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

レバーを引き上げて、トランクのロックを解錠する

■ 車外からトランクを開けるには

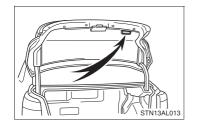
スマートエントリー&スタートシステム

→P. 47

ワイヤレス機能

→P. 58

知識

■トランクグリップ

トランクを閉めるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

- ●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はスマートエントリー&スタートシステム機能で開けることができます。
- ●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- ●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

⚠ 警告

■走行中の警告

● 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

● 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

● お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■ **トランクの使用にあたって**

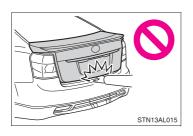
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。

●トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

STN13AL014

●半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

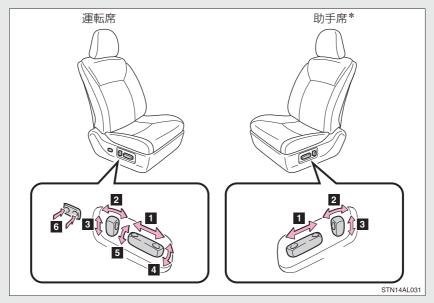
STN13AL015

●トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

●トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

フロントシート

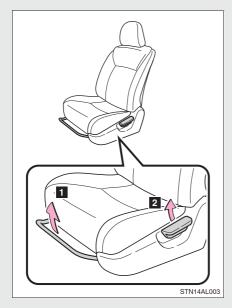
パワーシート装着車

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 ヘッドレストの上下調整*（→P. 74）
4 クッション前端の上下調整（運転席のみ）
5 シート全体の上下調整（運転席のみ）
6 腰部硬さ調整（運転席のみ）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

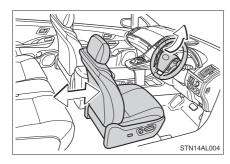
マニュアルシート装着車＊（助手席のみ）

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パワーイージーアクセスシステム（ドライビングポジションメモリー装着車）

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席が自動で、次のように動きます。

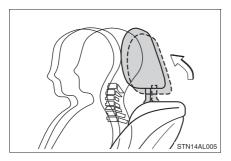
STN14AL004

降車時：次のすべての操作を行ったとき、ハンドルが最上段・最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

- “パワー”スイッチをOFFにする
- シートベルトをはずす

乗車時：次のいずれかの操作を行ったとき、ハンドルが手前に移動、運転席シートが前方に移動（オートリターン機能）

- “パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
- シートベルトを装着する

アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車を除く）

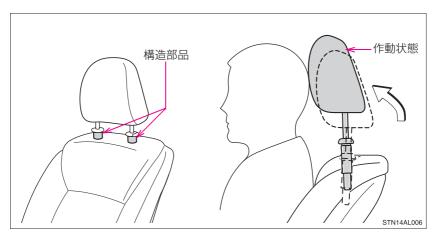
STN14AL005

追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

知識

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について（ドライビングポジションメモリー装着車）

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車を除く）

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

■トヨタ販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

警告

■**リクライニング調整について**

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

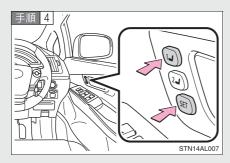
ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。
ドライビングポジションは 2 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

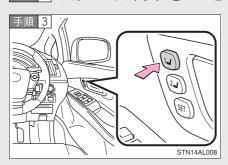
手順 2 “パワー”スイッチを ON モードにする

手順 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する。

“SET”ボタンを押しながら、または“SET”ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 または2のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

手順 2 “パワー”スイッチを ON モードにする

1 または2のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■“パワー”スイッチ OFF 後の作動

“パワー”スイッチを OFF にしたあとでも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

次のいずれかの操作をします。

- ●“SET”ボタンを押す
- ●1 または 2 のボタンを押す
- ●シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）
- ●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■シート位置の正しい再生について

シート位置が、各シート調整機構の最端部にある状態で、更にその方向に操作すると、システムがシートの現在位置を誤認識し、メモリー再生位置にずれが生じることがあります。

■ドアの解錠と連動させるには（メモリーコール機能）

お好みのドライビングポジションを登録して、ドアの解錠と連動させることができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

■トヨタ販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

登録した運転席の位置に対して、車両カスタマイズ機能（→P. 371）で設定した移動量だけ、シートが後方に移動します。

⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

手動式＊

1 上げる

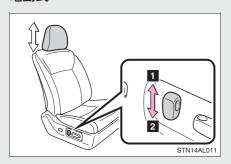
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

電動式＊

1 上がる

2 下がる

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

手動式*

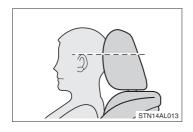
STN14AL012

解除ボタンを押しながら取りはずします。

電動式*

ヘッドレストの取りはずし、取り付けについてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

STN14AL013

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

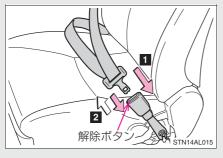
● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

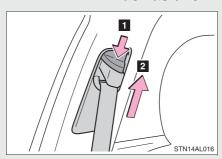
● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

■ 着け方、はずし方

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

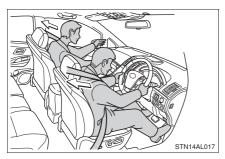
2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

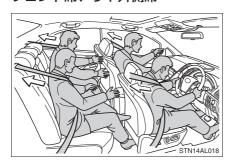
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー

フロント席のみ

STN14AL017

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

フロント席、リヤ外側席

STN14AL018

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

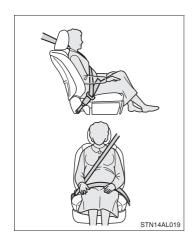
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 214）

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

STN14AL019

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 77)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 117)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 77)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバック／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

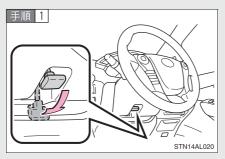
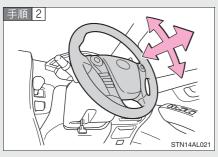
警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

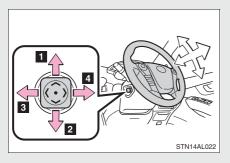
ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

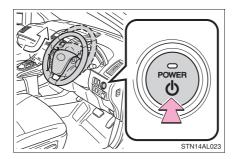
■ 手動での調整*

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

■ 電動での調整*

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 前方へ
4 手前へ

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

オートアウェイ＆オートリターン機構（電動調整のみ）

“パワー”スイッチを OFF にすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにすると、もとの位置にもどります。

知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動調整のみ）

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき※

※ シートベルトを装着していれば“パワー”スイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 72）

警告

■走行中の警告

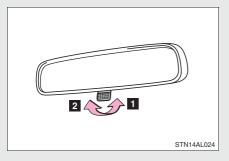
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（手動調整のみ）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

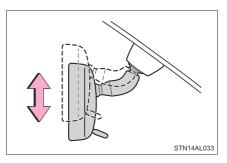
インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

STN14AL024

1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた

STN14AL033

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

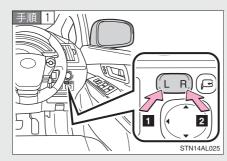
⚠ 警告

■運転中の警告

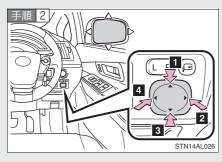
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

オート電動格納式ミラー非装着車

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

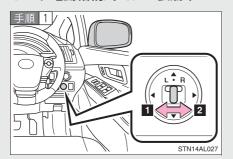
2 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

1 上

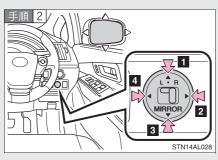
2 右

3 下

4 左

オート電動格納式ミラー装着車

ミラーを選ぶ

1 L ：左

2 R ：右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

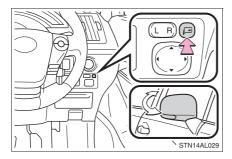
1 上

2 右

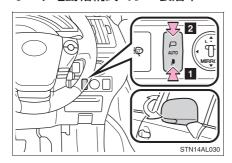
3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

オート電動格納式ミラー非装着車

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、元の位置にもどります。

オート電動格納式ミラー装着車

1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■**作動条件**

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■**リバース連動機能（オート電動格納式ミラー装着車）**

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（“L”・“R”の中間）にしておくと、この機能は作動しません。

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 257）を行ってください。

・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
・地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
・鏡面に傷を付けたとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

■ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 72）

■寒冷時に「オート作動」で使用するときは（オート電動格納式ミラー装着車）

寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーター*が作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

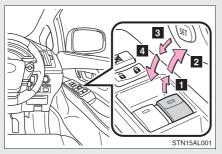
■レインクリアリングミラーの取り扱いについて

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーター*を作動させるなどして解氷してください。
  親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

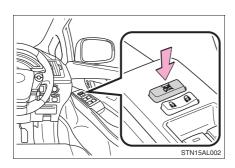
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める

2 自動全閉※

3 開ける

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“パワー” スイッチを ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反動して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。*（→P. 348）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。*（→P. 58）

*：トヨタ販売店での設定が必要です。

■トヨタ販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

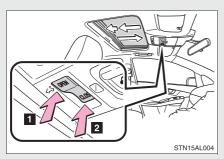
- ●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- ●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ●お子さまには、ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスの操作をさせないでください。(→P. 58)
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ / ダウンすることができます。

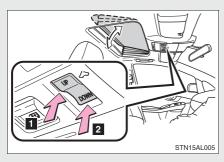
■ 開閉

1 ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。*（→P. 348）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。*
  ただし、ワイヤレスリモコンでのドアガラス開閉が可能なときのみ設定できます。（→P. 58）

  *：トヨタ販売店での設定が必要です。

■風切音の低減機能

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順1 車を停止する

手順2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、１０秒間停止します※2。その後再び閉じ、チルトアップし、１秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順1 車を停止する

手順2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で１０秒間停止し※2、微調節後１秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 １０秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、１秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

“パワー”スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ トヨタ販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

警告

■ ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

STN15AL006

STN15AL007

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまには、ワイヤレスリモコンを使ってムーンルーフの操作をさせないでください。（→P. 58）
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

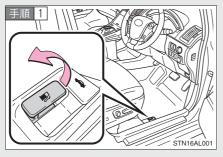
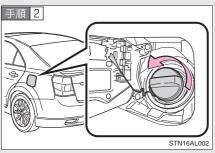
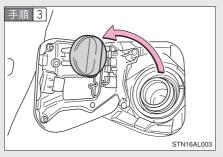
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

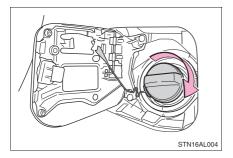
次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“パワー”スイッチをOFFにしてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

STN16AL004

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

55 L

⚠ 警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

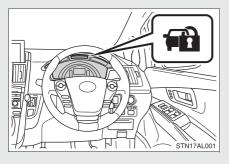
⚠ 注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 52)

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

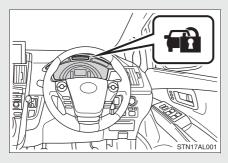
侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ G-BOOK mX Pro サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書 /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- “パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する。(数秒後に解除・停止します)

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

● 車内に人が乗っていないか

● ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか

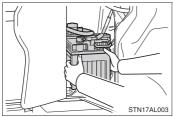
● 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

STN17AL002

● 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき

STN17AL003

● 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 67）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 67）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 67）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 82）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 74）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 77）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

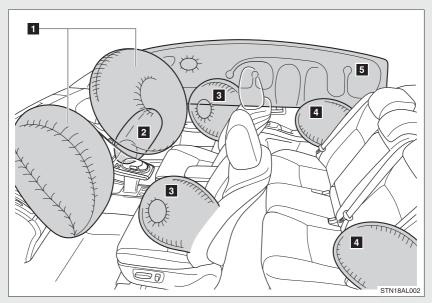
警告

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS リヤサイドエアバッグ*
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-BOOK mX Pro サービス※の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

  ※ G-BOOK mX Pro サービスをご契約のお客様のみ、ご利用できます。

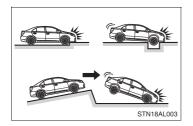
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

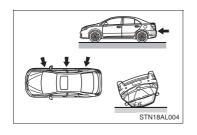
■SRS エアバッグが作動するとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。

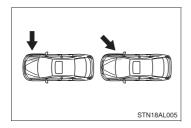
■衝突以外で作動するとき(フロント SRS エアバッグ)

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

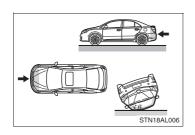
■SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突
●後方からの衝突
●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

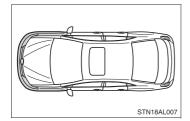
●後方からの衝突

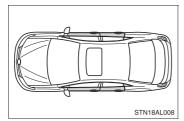
●横転

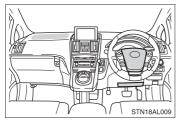
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

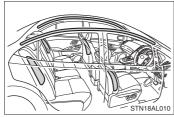
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

STN18AL007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STN18AL008

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STN18AL009

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

STN18AL010

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているフロントシート・リアシートサイドガーニッシュ表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

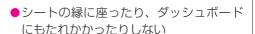
●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- ●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- ●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 126)

- ●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

- ●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- ●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

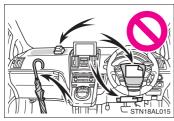
■SRS エアバッグについて

STN18AL013

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

STN18AL014

●助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

STN18AL015

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

STN18AL016

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・リアシートサイドガーニッシュ・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0^{+}：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰ に相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0^+（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF ※	U	U
	後ろ向き ×	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※：子供専用シートを取り付ける際は、背もたれの角度を最前段位置にしてください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）: サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 119）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 120) を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

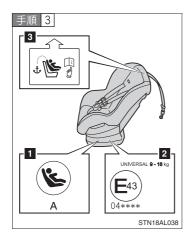
(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

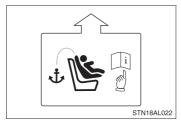
手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 121) で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク/ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する。

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 126）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

マニュアルシート装着車

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

パワーシート装着車

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

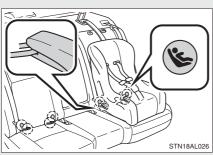
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

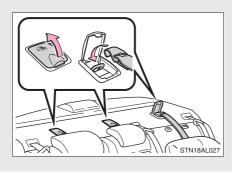
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

STN18AL025

シートベルトによる取り付け
(→P. 127)

STN18AL026

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→P. 127)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)

STN18AL027

トップテザーアンカー
(→P. 127)

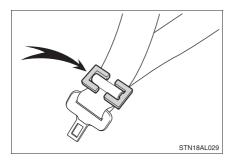
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

STN18AL028

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

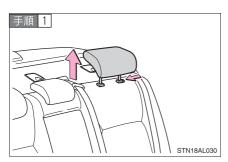
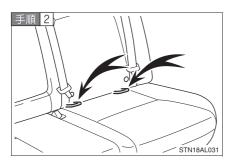
チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

STN18AL029

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

STN18AL030

ヘッドレストをはずす（→P. 74）

固定専用バーの位置を確認する

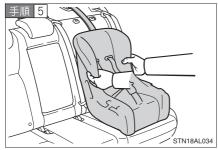
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

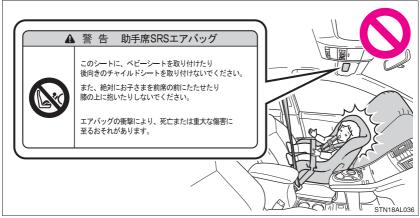
●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

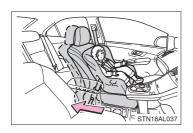
⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

STN18AL037

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 127）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P. 144

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P. 152）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認する。（→P. 152）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 159）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P にします。（→P. 153）

■ 駐車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 159）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする（→P. 153）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認する。（→P. 152）

手順 4 “パワー”スイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

手順 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認する

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 42 の 「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトポジションが D 以外のとき

●走行モードが EV ドライブモードのとき(→P. 149)

●車速が約 100 km/h 以上のとき

■トヨタ販売店またはマルチインフォメーションスイッチで設定可能な機能

エコドライブインジケーターランプの ON/OFF を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 371)

⚠ 警告

■発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

⚠ 警告

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置をON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。
特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●前進側のシフトポジションにいれたまま惰性で後退したり、R にいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトポジションを P にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを D にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

●走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 362を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 152)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトレバーの操作後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■**継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**停車するときは**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 万一システムの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

⚠ 警告

● ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転中は

● 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

● 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

● パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

● ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

● ハンドルがとられる

● 異常な音や振動がある

● 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 336 をご覧ください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン･ハイブリッド用トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水により P ポジション制御関連部品が損傷すると、パーキングロックが解除できなくなる可能性があります。

■P ポジションから切りかわらない時

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。(→P. 350)

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されている時は、ハイブリッドシステムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。(→P. 153)

手順 3 “パワー”スイッチを押す

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

手順 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません

■ ハイブリッドシステムの停止方法

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 159）

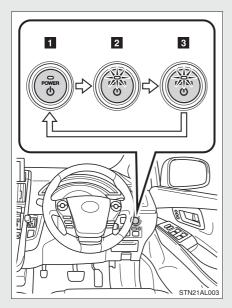
手順 3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする（→P. 153）

シフトポジション表示灯が P であることをメータで確認する。（→P. 152）

手順 4 “パワー”スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■ “パワー”スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 56

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 52

■ご留意いただきたいこと

→P. 53

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 102）

■“パワー”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 319

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 298

■“パワー”スイッチの操作について

- “パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- “パワー”スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー”スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

- シフトポジション P 以外の状態で、車両を完全に停止させ“パワー”スイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、“パワー”スイッチが OFF になります。
- P ポジション以外から“パワー”スイッチを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジション※が P に切りかわったことを確認してから、ゆっくりブレーキペダルを離してください。

  ※シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えた後も数秒間表示されます。
- P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。
  システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、3 秒以上“パワー”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

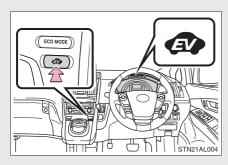
もしハイブリッドシステムが始動しにくかったりする場合は、ただちにハイブリッドシステムの点検を受けてください。

■“パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→P. 25)

EV ドライブモードの ON･OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
目安として、エネルギーモニターの残量表示で３レベル以下（→P. 34）

●車速が 40 km/h 以上のとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントデフロスターを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

下記条件を満たした時、自動的に解除されることがあります。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
目安としてエネルギーモニターの残量表示で２レベル以下（→P. 34）

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●車速が 40 km/h をこえたとき
ガソリンエンジンの冷却水温が低いときは、30 km/h をこえた時。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 40 km/h 以下で、数百 m 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

SAI は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

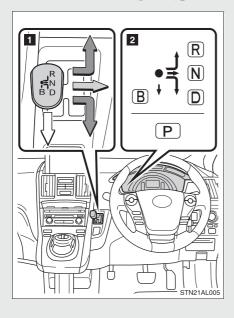
警告

■EV ドライブモードについて

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。
特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

1 シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

DまたはRポジションへ切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

Nポジションへ切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持すると、Nに切りかわります。

Bポジションへ切りかえるときは、シフトポジションがDのときのみ、切りかえが可能です。

● シフトレバーを操作したあとは、常にこの位置にもどります。

PからD･Rへ、またはDからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

2 シフトポジション表示灯

シフトポジションの選択時には、メータ内のシフトポジション表示灯が切りかわったことを必ず確認してください。

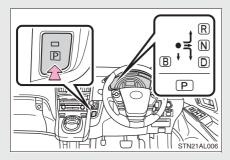
D, Bポジション以外のときは、シフトポジション表示灯のB方向への矢印とBポジション表示が消灯します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ P ポジションスイッチ

P ポジションスイッチを使用して P ポジションへ切りかえることができます。

車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏みながら、P ポジションスイッチを押す

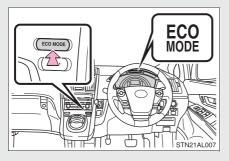
シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

シフトポジション表示灯の P が点灯していることを確認してください。

● P から他のシフトポジションに切りかえるときは

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。
  ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえができません。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

■ エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON・OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の“ECO MODE”表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

知識

■シフトポジションについて

- “パワー” スイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- “パワー” スイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。
- READY インジケーターが点灯中は、P ポジションから、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅中は、シフトレバーを操作しても、P ポジション以外には切りかわりません。
- D ポジション以外から直接、B ポジションに切りかえることはできません。

また、下記に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき

・シフトポジションPからブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・シフトポジション P または N から、B ポジションを選択したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき※1
・車両が前進しているときに、シフトレバーを操作して R ポジションを選択しようとしたとき※2
・車両が後退しているときに、シフトレバーを操作して D ポジションを選択しようとしたとき※3
・シフトレバーを操作して、シフトポジションを R から B へ切りかえようとしたとき

※1 極低速走行時は、P ポジションに切りかわることがあります。(→P. 156)

※2 低速走行時は、R ポジションに切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D ポジションに切りかわることがあります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■エンジンブレーキについて

シフトポジションが B のとき、アクセルペダルから足を離すと、エンジンブレーキがかかります。

・高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。
・B ポジションでも加速することができます。

通常走行時に B ポジションにて走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常走行時は、D ポジションで走行してください。

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整、又はエコドライブモードの解除をしてください。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／エアコン」をご覧ください。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

■シフトレバーについて

シフトレバーにものをぶら下げないでください。
シフトレバーが定位置にもどらなくなり、走行中に思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■**駆動用電池の充電について**

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■**P ポジション制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、P ポジション制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに P ポジション制御システムの異常警告メッセージが表示されたとき（→P. 320）
- P ポジションスイッチの作動表示灯が点滅したとき
- シフトポジション表示灯の文字（P や R など）が点滅したとき
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

■**P ポジションから切りかわらない時**

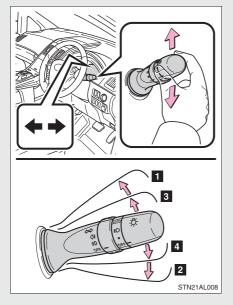
補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。（→P. 350）

■**シフトレバーと P ポジションスイッチ操作について**

シフトレバーと P ポジションスイッチの連続操作を繰り返し行わないでください。システム保護のため一時的に P ポジションから切りかえることができなくなります。この場合は、15 秒ぐらい待ってから操作してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

STN21AL008

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

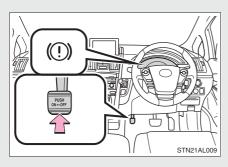
知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/h を超えたとき、警告ブザーが鳴ります。（→P. 323）

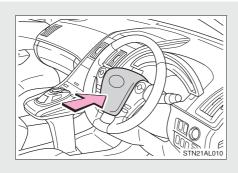
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 226）の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

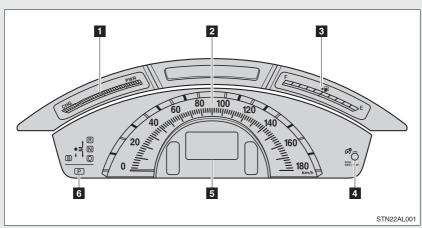
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 📯 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整した後は（ドライビングポジションメモリー非装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 82）

計器類

"パワー"スイッチを ON モードにするとメーターが点灯します。

1 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムインジケーターはハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→P. 162

5 マルチインフォメーションディスプレイ（→P. 168）
オドメーター／トリップメーターディスプレイ

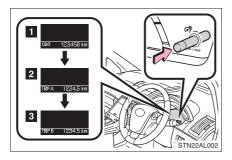
オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションを表示します。

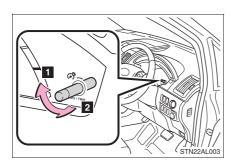
表示の切りかえ

STN22AL002

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

通算走行距離／通算平均燃費／通算平均速度を表示しているときオドトリップメーターは表示されません。(→P. 169)

メーター照度調整

ノブをまわして、メーター照明の明るさを調整できます。

STN22AL003

1 明るくなる
2 暗くなる

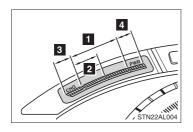
知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度調整ノブを右側いっぱいにまわした状態では、ライトスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。
また、メーター照度調整ノブを左側いっぱいにまわした状態では、ライトスイッチを ON にしても足元照明とリモートタッチ照明は点灯しません。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

1 エコエリア
エコドライブインジケーターランプが点灯します

2 ハイブリッドエコエリア
エコドライブインジケーターランプが点灯します。

3 チャージエリア
エコドライブインジケーターランプが点灯します。

4 パワーエリア
エコドライブインジケーターランプが消灯します。

●インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。ハイブリッドエコエリアではガソリンエンジンの動力を使用しない状態※1を多く含む状態を示します。

●チャージエリアは、回生※2状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※1：ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

※2：ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■トヨタ販売店またはマルチインフォメーションスイッチで設定可能な機能

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を変更することができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

注意

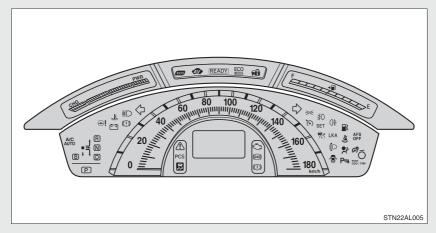
■ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→P. 314）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 356）

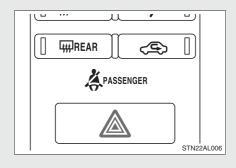
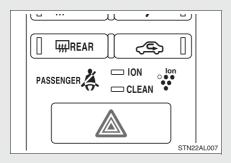
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

■ メーター

STN22AL005

■ センターパネル

プラズマクラスター® 非装着車

STN22AL006

■プラズマクラスター® 装着車

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 158)

尾灯表示灯（→P. 172)

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 172)

フロントフォグライト
表示灯*（→P. 175)

リヤフォグライト
表示灯*（→P. 176)

READY インジケーター
(→P. 144)

EV ドライブモード表示灯
(→P. 149)

ECO MODE
ECO MODE 表示灯
(→P. 154)

オートエアコン表示灯
(→ 別冊「ナビゲーション
システム取扱書」参照)

※
エコドライブインジケー
ターランプ（→P. 136)

クルーズコントロール
表示灯（→P. 185, 189)

レーダークルーズコント
ロール表示灯*
(→P. 189)

LKA 表示灯*
(→P. 202)

車速セット表示灯
(→P. 185, 189)

クリアランスソナー表示灯*
(→ 別冊「ナビゲーション
システム取扱書」参照)

※
AFS OFF 表示灯*
(→P. 173)

※
（点滅）
スリップ表示灯
(→P. 209, 212)

セキュリティ表示灯
(→P. 102, 103)

※
（点灯または
速い点滅）
PCS 警告灯*
(→P. 214)

シフトポジション表示灯
(→P. 152)

※作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 314)

※作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

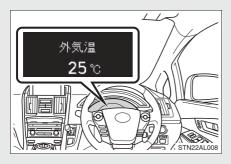
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

● トリップインフォメーション（→P. 169）

航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

● レーダークルーズコントロール表示*（→P. 189）

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

● LKA（レーンキーピングアシスト）表示*（→P. 202）

レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

● PCS（プリクラッシュセーフティシステム）表示*（→P. 214）

プリクラッシュセーフティシステムより衝突の可能性があると検知したとき表示されます。

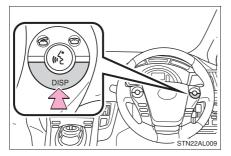
● クリアランスソナー表示*

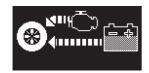
（別紙「ナビゲーションシステム取扱書」参照）

● 警告メッセージ（→P. 319）

各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

表示切りかえ

項目を切りかえるには、DISP ボタンを押します。

■ エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→P. 34)

■ 通算走行距離／通算平均燃費／通算平均車速

リセットしてからの通算の走行距離と平均燃費と平均車速を表示します。

- リセットするには、画面表示中に “DISP” スイッチを 1 秒以上押します。
  ナビゲーションシステムの画面の「区間燃費画面」もリセットされます。(→P. 38)
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費／給油後平均燃費

現在の瞬間燃費と給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

航続可能距離
100 km

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。
- 燃料の残量が残りわずかになると、航続可能距離の表示が“航続可能距離 残りわずかです”に変わります。(→P. 329)

■ 外気温

外気温
25 ℃

外気温を表示します。

■ セッティング

セッティング
DISP ボタン長押し

エコドライブインジケーターランプの ON/OFF を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 371)

知識

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●通算走行距離／通算平均燃費／通算平均車速

●給油後平均燃費

●航続可能距離

●平均車速

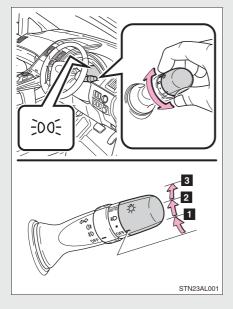
注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

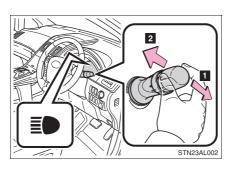
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1 ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

2 (ヘッドライト) 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 AUTO ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯（“パワー”スイッチがON モードのとき）

ハイビームにする

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

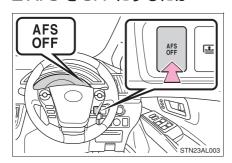
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）*

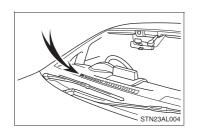
AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

AFS システムの ON・OFF を切りかえる

AFS を OFF にすると“AFS OFF”表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてライトが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■“AFS OFF”表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■トヨタ販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 371）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ*

1 OFF 消灯する

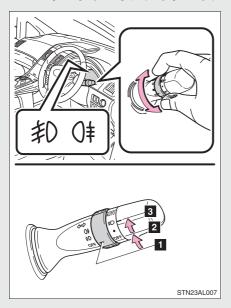
2 （フォグランプ表示灯） 点灯する

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤフォグライトスイッチ*

1 OFF 消灯する
2 点灯する

STN23AL006

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

フロント＆リヤフォグライトスイッチ＊

1 OFF 消灯する

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロント＆リヤフォグライトを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：リヤフォグライトは、ヘッドライトまたはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

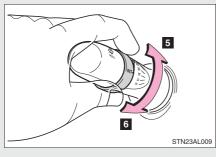
ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

間欠時間調整式ワイパー*

INT を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

1 INT 間欠作動
2 LO 低速作動
3 HI 高速作動
4 MIST 一時作動

5 間欠ワイパーの作動頻度(減)
6 間欠ワイパーの作動頻度(増)

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

雨滴感知式ワイパー＊

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

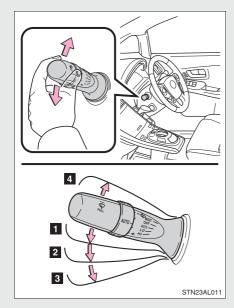
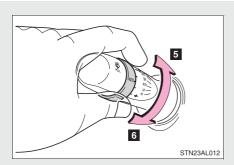
AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度も調整できます。

1 AUTO 雨滴感知オート作動

2 LO 低速作動

3 HI 高速作動

4 MIST 一時作動

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

5 雨滴センサーの感度調整(低)

6 雨滴センサーの感度調整(高)

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

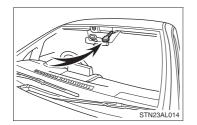
知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

●“パワー”スイッチが ON モードのときにワイパースイッチを **AUTO** にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90 ℃以上または -10 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。
その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■**フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

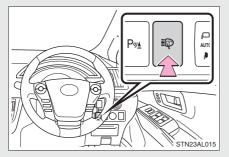
■**ノズルがつまったときは**

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ヘッドライトクリーナー＊

ヘッドライトにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドライトを洗浄する

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードでヘッドライトが点灯しているとき

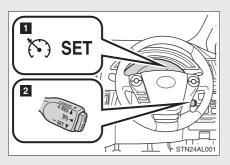
注意

■ウォッシャー液が出ないときは

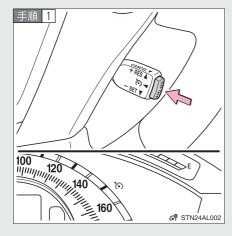
ヘッドライトクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール＊

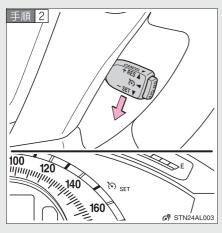
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯

2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

“ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

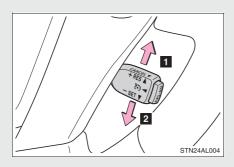
OFF にするには、再度スイッチを押します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内に“SET”の表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえるには

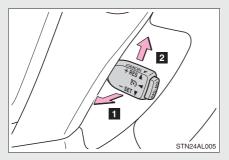
設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h
調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 速度は約 40 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールをキャンセルしなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

“ON-OFF”スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、“ON-OFF”スイッチでシステムを OFF にしてください。

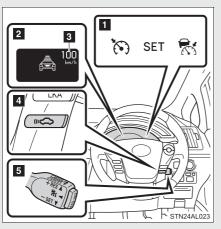
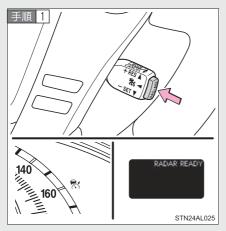
■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定速度以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

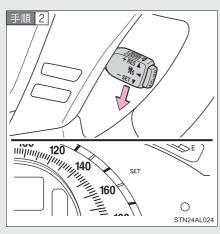
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 表示灯
2 ディスプレイ
3 設定速度
4 車間距離切りかえスイッチ
5 レーダークルーズコントロールスイッチ

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 車速を設定する（車間制御モード）

“ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

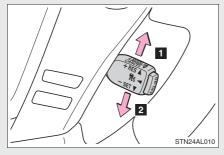
メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度“ON-OFF”スイッチを押します。

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内に“SET”の表示灯が点灯します。
レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

STN24AL010

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h

調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード（→P. 195）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

STN24AL012

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

3 短い

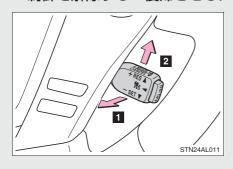
“パワー” スイッチが ON モードになるたびに **1** に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（時速 80 km/h で走行している場合）
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させるには

1 解除するには、レバーを手前に引く

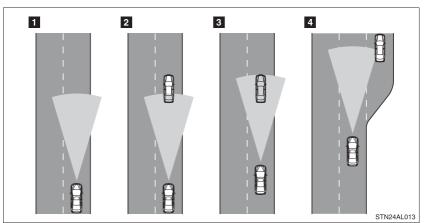
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

実際の速度が約40 km/h以上のときにレバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、定速制御モードでは、実際の速度が約40 km/h以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：
設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：
設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

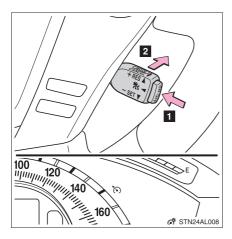
追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

1 "ON-OFF" スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 "ON-OFF" スイッチを押します。

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続ける

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

"パワー" スイッチを OFF にし、再度 "パワー" スイッチを ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには
→P. 191

制御を解除する・復帰させるには
→P. 192

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●速度は約 50 km/h 〜約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定速度以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを AUTO モードまたは高速作動の位置にしたとき）

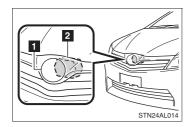
その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- ●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- ●実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- ●VSC が作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー
2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。
(→P. 315, 320, 323)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ON-OFF”スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

●高速道路の出入り口

●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

⚠ 警告

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 194）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●停車中の車がいるとき

●先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

⚠ 警告

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白（黄）線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、“ピピピピ・・・”というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※：ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操舵力を与えます。

■ 車線維持支援機能

車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65 km/h 以上でレーダークルーズコントロール（→P. 189）がセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。
また、小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。

■ 設定のしかた

白（黄）線の認識状態・車速・レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて、車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。

スイッチを押して設定する

メーター内に“LKA”の表示灯が点灯します。

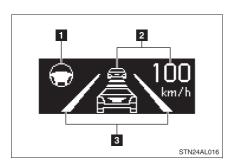
解除するには再度スイッチを押します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が約 50 km/h 以上	車速が約 65 ～ 100 km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が 64 km/h 以下で車間制御走行しているとき	○	×
	ON 設定車速が 65 km/h 以上で車間制御走行しているとき	○	○

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。

1 ハンドル表示

車線維持支援機能作動中

2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している。（このとき“ピピッ”というブザーが鳴ります）

線が太いとき：車線逸脱警報機能作動中

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

●方向指示レバーを操作したとき

●車線変更に相当する程度の操舵力で、ハンドルを操作したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき
ただし、レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。（車線逸脱警報機能のみ再開します）

●作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●ワイパーが連続で作動したとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、解除時のブザーが鳴らないときがあります。

■車線逸脱警報機能が作動したとき

車線逸脱警報機能が作動したあとは、機能を一時的に解除し、数秒間経過するまで再開しません。

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車するとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 207）の温度が適温になると作動開始となるので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■LKA の表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。
（→P. 315、323）

警告

■LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方への注意を軽減する装置ではないため、常にハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■次のような状況では、LKA を OFF にして走行してください。

次の状況では、LKA を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

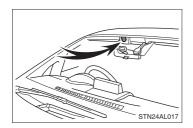
- スタッドレスタイヤ・応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装備しているとき
- 純正品以外の部品に交換しているとき（タイヤ・サスペンションなど）
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道のわだちなどで、帯状に雪が残っているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき

⚠ 注意

■次の状況では、LKA が作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。

- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 片側のみに白（黄）線があるとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイなどのとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、もしくは見えにくくなっているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光、太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐、合流路などを走行するとき
- 雨・雪・霧などで白（黄）線が見えにくいとき
- 雨天・雨上がり・水溜りなど濡れた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 走行中の車両が横風を受けているとき

注意

■**白線認識用カメラ**

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。

●カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

●インナーミラーの位置がカメラのレンズ前にかからないようにする

●寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る

●ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。

●カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

●カメラの向きは精密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 212

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 214

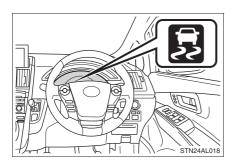
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 221

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC･TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

ABS 作動時もスリップ表示灯が点滅します。

知識

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

● ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキを強く踏んだり、くり返し踏んだりしたとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

⚠ 警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- ●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- ●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

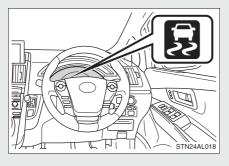
■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、指定のメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 368)
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●シフトポジションが P 以外の位置のとき

●パーキングブレーキがかかっていないとき

●アクセルペダルを踏んでいないとき

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・P ポジションスイッチを押したとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

警告

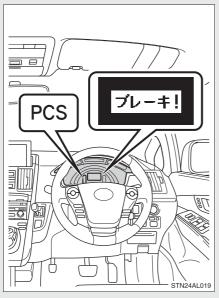
■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

プリクラッシュセーフティシステム＊

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、車両損傷の低減に寄与します。

■ 衝突警告表示

衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 78）

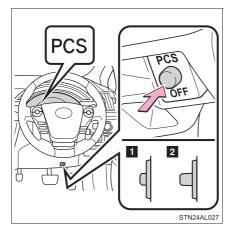
＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

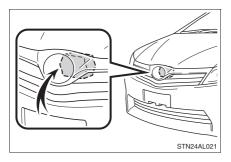
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速・進路から衝突する可能性を事前に判断します。

レーンキーピングアシスト装着車については、レーダーセンサーに加え、白線認識用カメラの映像からも衝突の可能性を検知します。(→P. 207)

知識

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①

・車速が約 30 km/h 以上
・緊急ブレーキ時や車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②

・フロント席の乗員がシートベルトを着用している
・車速が約 5 km/h 以上
・自車から見た前方の車両か障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・車速が約 30 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- ●カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- ●カーブで対向車とすれちがったとき
- ●狭い鉄橋を走行したとき
- ●路面に金属物があったとき
- ●凹凸のある路面を走行したとき
- ●右折時に対向車とすれちがったとき
- ●前を走っている車に急に近づいたとき
- ●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- ●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき
- ●ETC ゲートを高速で通過したとき
- ●路面の勾配のため、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えたとき
- ●陸橋を通過したとき
- ●車両姿勢が極端に変化しているとき
- ●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- ●きついカーブや起伏がある場所
- ●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- ●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- ●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- ●VSC が作動していないときに車が横すべりしている状態
- ●車両姿勢が極端に変化している状態
- ●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 315, 320, 323)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しない場合があります。

⚠ 警告

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

● センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

● センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

● センサーを分解しない

● センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

● センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

● センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

⚠ 警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

- 運転者が見る過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

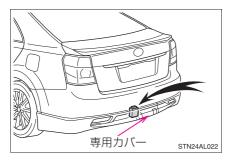
追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害の軽減に貢献するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

追突の可能性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害の軽減に貢献します。

レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■システムの作動条件

“パワー”スイッチがONモードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに次の条件で作動します。

●後方車両への警報（非常点滅灯）

・自車から見た後方車両の接近速度が約30 km/h以上
・停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
・方向指示灯や非常点滅灯がOFF

●むち打ち傷害の軽減

・自車から見た後方車両の接近速度が約15 km/h以上
・停止または前進している

■むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できない場合があります。

■センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムは、すべての追突を検知できるシステムではありません。次のときは作動しない場合がありますので、周辺への注意を怠らないでください。

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●二輪車などは検知しないことがあります

●雨滴・氷雪がリヤバンパーに付着したとき

●カーブや起伏の大きな道路のとき

●斜めからの追突やオフセットの大きな追突のとき

■追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

●右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車が通過したとき

●道路脇に停車したときなどに、後続車が真横を通過したとき

●走行時、後続車が近距離から追い越したとき

●走行時または停車時、後続車が近距離まで急接近したとき

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します（→P. 315, 320, 323）

警告

■レーダーセンサーと専用カバーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車の専用カバーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●専用カバーは常にきれいにしておく
雨滴・氷雪などによって性能が低下することがあります。

●レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサーまたはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、修理してください。

●センサーを分解しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

●専用カバー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーを付けたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない

●専用カバーの改造や別のものに交換しない

●専用カバーの塗装修理は絶対行わないでください。誤作動、不作動の原因となります。

●専用カバーが傷ついた場合、塗装修理は行わず、専用カバーを交換してください。交換については、トヨタ販売店に相談してください。

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

ヘッドレストカバーは付けないでください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル･アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ･ 運転席足元
  - ･ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ･ パッケージトレイ
  - ･ インストルメントパネル
  - ･ ダッシュボード

警告

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 264）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

⚠ 警告

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回を避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. 室内灯のつけ方

3-2. 収納装備の使い方

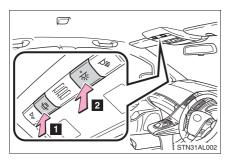
3-3. その他の室内装備の使い方

室内灯一覧

1 リヤインテリアライト（→P. 231）
2 フロントインテリアライト（→P. 231）
3 リモートタッチ照明（“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モード）
4 フロントパーソナルライト（→P. 231）
5 足元照明
6 ドアカーテシー照明

インテリアライト

フロント

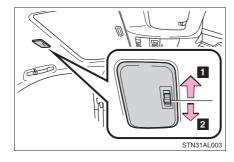
STN31AL002

1 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる

スイッチを押して、押し込まれた状態になると消灯になります。

2 ライトの点灯・消灯を切りかえる

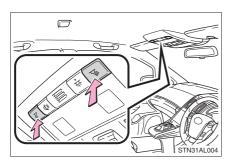
スイッチを押して、押し込まれた状態になると点灯になります。

リヤ

STN31AL003

1 ライトを点灯する

2 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる

パーソナルライト

STN31AL004

ライトを点灯・消灯する

スイッチを押して、押し込まれた状態になると点灯になります。

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

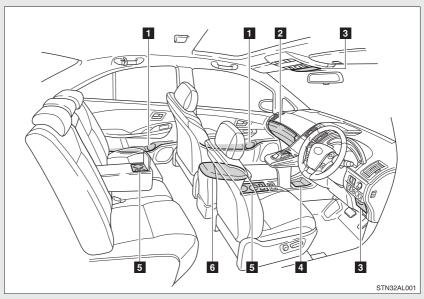
電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー”スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

収納装備一覧

1 ボトルホルダー
2 グローブボックス
3 小物入れ
4 オープントレイ
5 カップホルダー
6 コンソールボックス

⚠ 警告

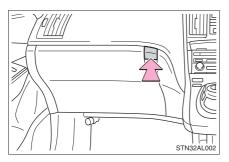
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

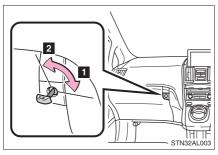
● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

● 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

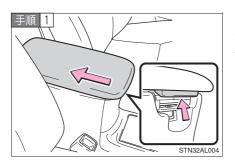
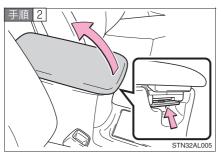
グローブボックスはロック解除ボタンを押して開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。

ボタンを押して開ける

1 施錠

2 解錠

⚠ 警告

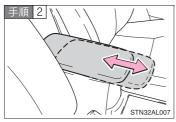
■**走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コンソールボックス

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドする

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストを持ち上げて開く

知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

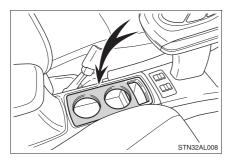
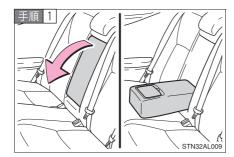
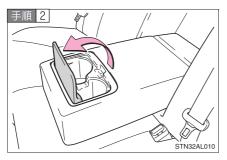
ノブを持ち上げてロック解除

アームレストをスライドする

警告

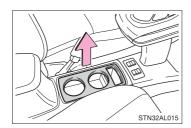
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

カップホルダー

フロント

リヤ

アームレストを手前に倒す

フタを開ける

知識

■フロントカップホルダーの仕切り部について

カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。

警告

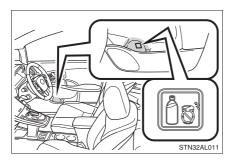
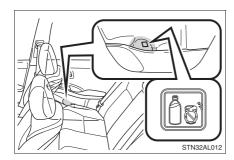
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

ボトルホルダー

フロント

リヤ

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

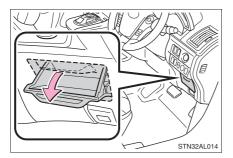
●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

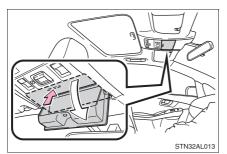
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

タイプ A

ツマミを引いて開ける

タイプ B

ボタンを押して開ける

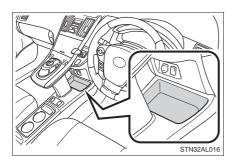
⚠ 警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

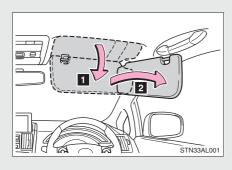
■収納してはいけないもの（タイプ B のみ）

200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

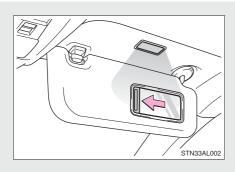
オープントレイ

⚠ 警告

■走行中の警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

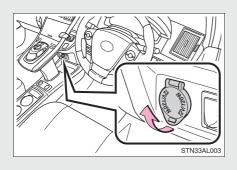
カバーを開けるとライトが点灯します。

⚠ 注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12 V 10 A をこえないようにしてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター*

1 HI（強）

インジケーター（橙）が点灯します。

2 LO（弱）

インジケーター（緑）が点灯します。

STN33AL004

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■使用しないときは

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
  - ・乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを切ってください。

アームレスト

STN32AL009

手前に倒して使用します。

⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

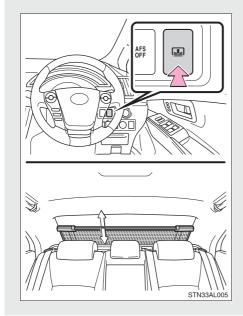
過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード＊

スイッチ操作でリヤサンシェードを上昇 / 下降できます。

展開 / 格納

＊ : グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしたあとでも、約60秒間リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションをRにすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。
ただし次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- ●スイッチをもう一度押す
- ●シフトポジションをPにする
- ●シフトポジションをPとR以外にし、15km/h以上で走行する

リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて15km/h以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■リバース連動機能が働かない場合

状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、リヤサンシェードを上昇・下降させてください。

■トヨタ販売店で設定可能な機能

リバース連動機能を非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧→P. 371）

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐため

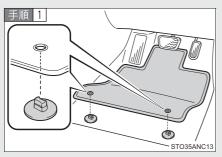
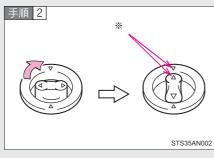
ハイブリッドシステムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

■正常に機能させるため

次のことをお守りください。

- ●モーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- ●開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- ●リヤサンシェードにものを貼らない
- ●溝をきれいに保つ
- ●長時間操作を続けない

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

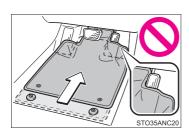
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

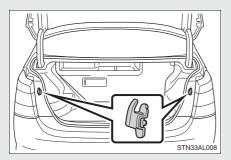
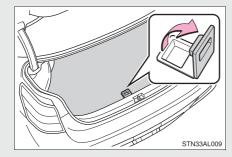
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

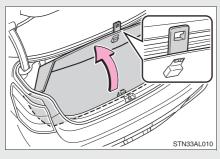
■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

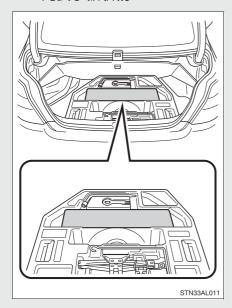
■**運転する前に**

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

トランク内装備

■ 買い物フック

■ ラゲージマット

レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。

レバーはトランクの縁へかけることができます。

■ 三角表示板収納スペース

STN33AL011

ラゲージマットの下に三角表示板を収納することができます。

知識

■収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

注意

■買い物フックの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

■トランクを閉めるときは

ラゲージマット上のレバーをトランクの縁へかけたままにしないでください。ラゲージマットが損傷するおそれがあります。

お手入れのしかた　4

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー*が引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

*:グレードなどで異なる装備やオプション装備

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 88）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

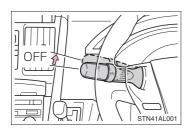
手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■後方プリクラッシュセーフティシステムについて（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車）

リヤバンパーの塗装に傷が付いたときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス*について

● ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

● ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉を繰り返さないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P. 30）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P. 108）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

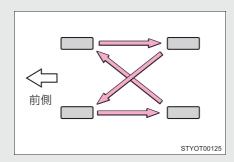
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

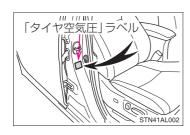
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

205/60R16 92H

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

後輪：210 kPa (2.1 kg/cm^2) ※

215/45R18 89W

前輪：250 kPa (2.5 kg/cm^2) ※

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R18 89W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R18 89W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

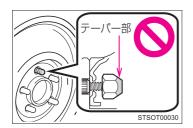
- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- ●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて（215/45R18 89W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

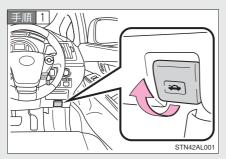
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

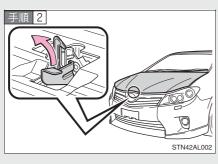
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

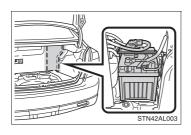
手順 1
STN42AL001

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2
STN42AL002

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■補機バッテリーについて

STN42AL003

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 350）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

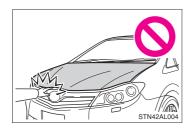
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

交換する際は SAI 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

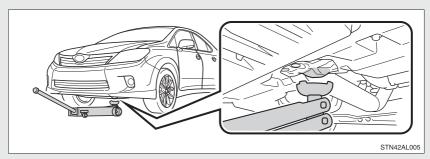
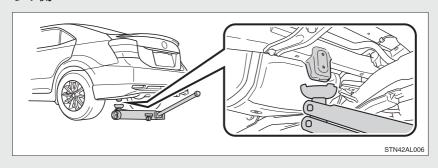
■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

　・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
　・ロッド部を軍手などでふれない
　・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
　・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

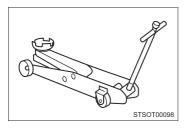
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側

リヤ側

警告

■車両を持ち上げるときには

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

STSOT00098

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする

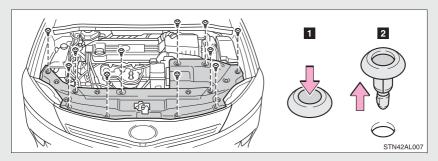
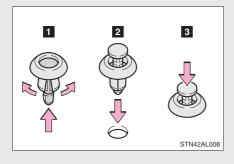
●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ クリップの取り付け方

クリップの中央部分を押し上げ、挿し込みます。

クリップ中央部分を押す

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“パワー”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 369）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 274

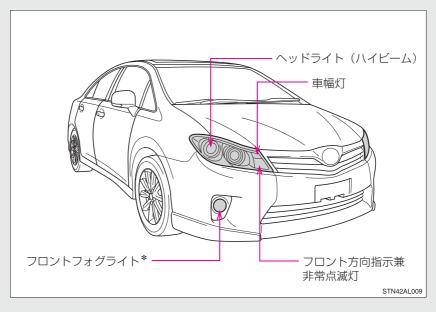
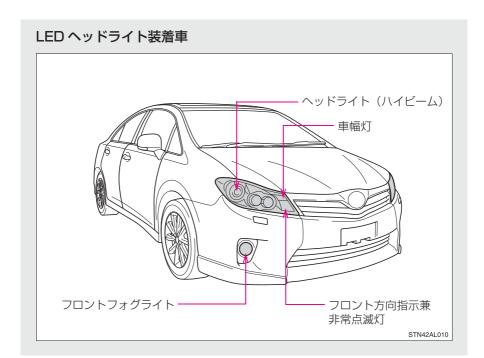
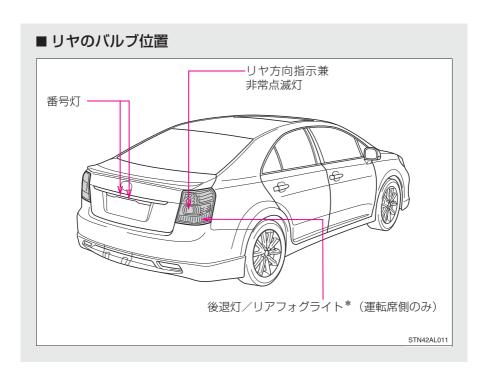
■ フロントのバルブ位置

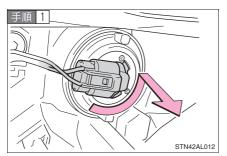
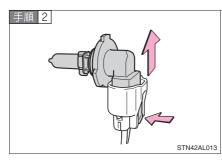
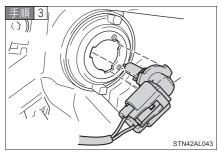
ディスチャージヘッドライト装着車

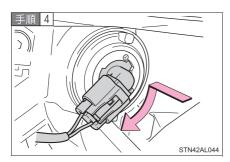
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

LEDヘッドライト装着車

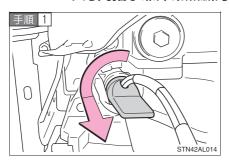
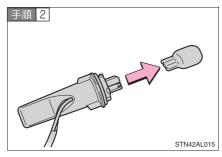
■ リヤのバルブ位置

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

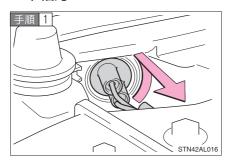
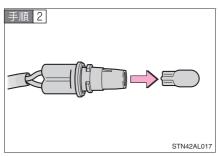
■ヘッドライト（ハイビーム）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

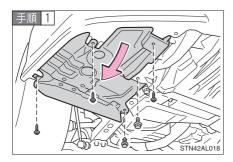
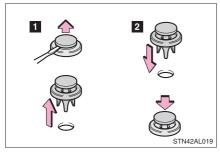
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

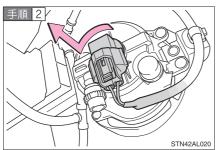
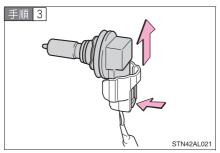
■ フロント方向指示兼非常点滅灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

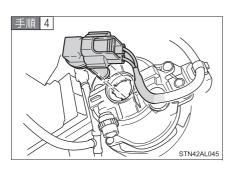
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

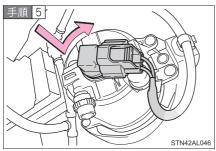
■ 車幅灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

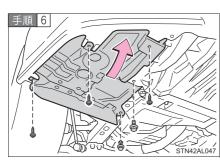
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*

フォグライト下側のカバーの固定ボルト･クリップをはずし、カバーをめくる

1 取りはずし

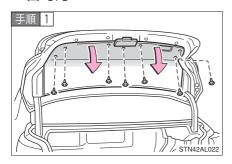
2 取り付け

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグライトを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

ボルト・クリップでカバーを固定し、取り付ける。

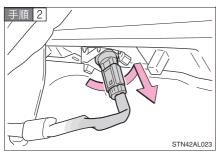
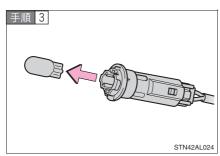
■ 番号灯

手順 1

トランクを開け、クリップをはずし内張りをはがす

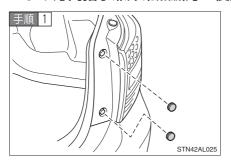
作業がしにくい場合は他のクリップを作業しやすいところまではずしてください。

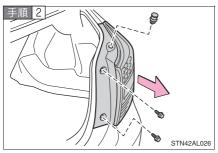
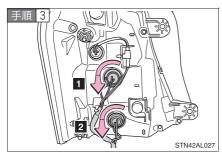
手順 2

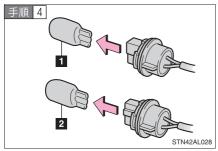
ソケットを取りはずす

手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯／リアフォグライト*

トランクを開け、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボルト・ストッパーゴムをはずし、ライト本体を取りはずす

ソケットを取りはずす

1 リア方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リアフォグライト*

電球を取りはずす

1 リア方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リアフォグライト*

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

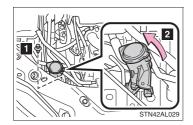
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト

知識

■運転席側のヘッドライト・フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

ウォッシャー液補給口の固定クリップをはずし、補給口の位置を移動させると、交換しやすくなります。

交換後は、必ずウォッシャー液補給口をクリップで固定してください。

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ライトについて

ヘッドライトロービーム（LED ヘッドライト装着車）・サイド方向指示兼非常点滅灯・尾灯・制動灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

■電球 (バルブ) を交換するときは

→P. 296

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●ディスチャージヘッドライト装着車：
ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

⚠ 警告

■ **ディスチャージヘッドライトについて**

● 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

● 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **お車の故障や火災を防ぐために**

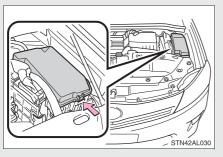
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

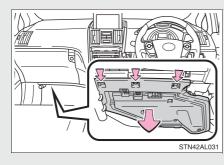
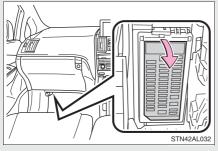
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

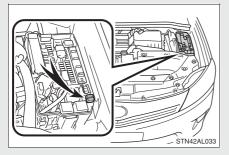
手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

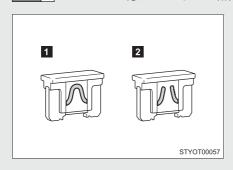
エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

助手席足元

足元のカバーを取りはずして、ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する（→P. 291）

手順 4 ヒューズを引き抜く

STN42AL033

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

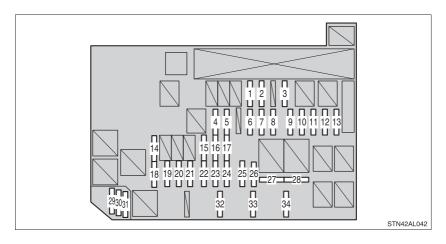
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

STYOT00057

1 正常

2 ヒューズ切れ

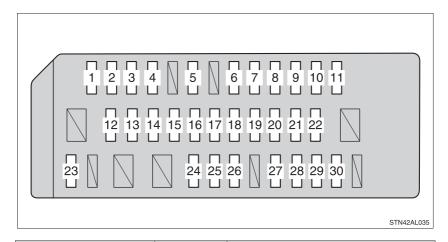
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	OIL PMP	10 A	未使用
2	S-HORN	10 A	S-HORN
3	ABS MAIN NO.2	7.5 A	電子制御ブレーキシステム
4	AMP NO.1	30 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
5	IGCT	30 A	PCU、IGCT NO.2、IGCT NO.3、ハイブリッドシステム
6	P CON MAIN	7.5 A	P 制御システム、トランスミッション、ハイブリッドシステム、スマートエントリー&スタートシステム
7	AM2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、ハイブリッドシステム、EFI システム、P 制御システム、クルーズコントロールシステム、レーダークルーズコントロールシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
8	ECU-B2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、EFI システム
9	MAYDAY	10 A	MAYDAY
10	ECU-B3	10 A	エアコン
11	TURN & HAZ	10 A	方向指示器、非常点滅灯
12	ETCS	10 A	EFI システム
13	ABS MAIN NO.1	20 A	電子制御ブレーキシステム
14	H-LP LH LO	15 A	ヘッドライト左側（ロービーム）
15	H-LP HI MAIN	20 A	ヘッドライト（ハイビーム）
16	AMP NO.2	30 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
17	DOOR NO.2	25 A	パワードアロックシステム
18	H-LP RH LO	15 A	ヘッドライト右側（ロービーム）
19	PCU	10 A	ハイブリッドシステム
20	IGCT NO.2	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、ハイブリッドシステム、P 制御システム、EFI システム
21	MIR HTR	10 A	リヤウインドウデフォッガー、ミラーヒーター
22	RAD NO.1	15 A	ナビゲーションシステム、オーディオシステム、ETC
23	DOME	10 A	ナビゲーションシステム、オーディオシステム、室内灯
24	ECU-B	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、エアコン、メーター、電動ミラー、電動チルト&テレスコピックステアリング、シートポジションメモリー、非常点滅灯
25	H-LP LH HI	10 A	ヘッドライト左側（ハイビーム）
26	H-LP RH HI	10 A	ヘッドライト右側（ハイビーム）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
27	EFI NO.2	10 A	EFI システム
28	IGCT NO.3	10 A	ハイブリッドシステム
29	SPARE	30 A	予備ヒューズ
30	SPARE	10 A	予備ヒューズ
31	SPARE	7.5 A	予備ヒューズ
32	EFI MAIN	20 A	EFI NO.2、フューエルシステム
33	BATT FAN	10 A	駆動用電池冷却ファン
34	IG2	20 A	ハイブリッドシステム、EFI システム、MET、IGN

助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト
2	PANEL	10 A	ナビゲーションシステム、オーディオシステム、エアコン、非常点滅灯、ワイパーデアイサー、シートヒーター、P ポジションスイッチ、ヘッドライトクリーナー、助手席シートベルト非着用警告灯、パワーウインドウ、AFS-OFF スイッチ、ECO・EV モードスイッチ、カメラ切りかえスイッチ、グローブボックスライト、リヤサンシェード、リモートタッチ、電動ミラー
3	IGN	10 A	電子制御ブレーキシステム、EFI システム、スマートエントリー&スタートシステム、制動灯
4	MET	7.5 A	メーター
5	WIP	30 A	ワイパー
6	WASHER	15 A	ウォッシャー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
7	A/C	10 A	エアコン
8	GAUGE	10 A	AFS、方向指示器、非常点滅灯
9	AFS	10 A	アダプティブフロントライティングシステム
10	ECU-IG NO.2	10 A	PCS、後方 PCS、LKA、レーダークルーズコントロール、エアコン、電動ミラー、ナビゲーションシステム
11	ECU-IG NO.1	10 A	AFS、電子制御ブレーキシステム、電動パワーステアリング、ムーンルーフ、雨滴感知式ワイパー、非常点滅灯、エアコン、電動ヘッドレスト、ステアリングスイッチ、シートヒーター、電動チルト＆テレスコピックステアリング、リヤサンシェード
12	DOOR RL	25 A	リヤ左側パワーウインドウ
13	DOOR RR	25 A	リヤ右側パワーウインドウ
14	SHADE RR	10 A	リヤサンシェード
15	D FR DOOR	25 A	運転席側パワーウインドウ、電動ミラー
16	P FR DOOR	25 A	助手席側パワーウインドウ、電動ミラー
17	TI & TE	30 A	電動チルト＆テレスコピックステアリング
18	STOP	10 A	制動灯、電子制御ブレーキシステム
19	A/C NO.2	10 A	未使用
20	RR FOG	7.5A	リヤフォグライト
21	FUEL OPN	7.5A	未使用
22	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
23	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
24	WELCAB	30 A	未使用
25	DOOR NO.1	25 A	パワードアロックシステム
26	SEAT HTR FL	10 A	助手席側シートヒーター
27	SEAT HTR FR	10 A	運転席側シートヒーター
28	RAD NO.2	7.5 A	ナビゲーションシステム、オーディオシステム、エアコン、リモートタッチ、ETC
29	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
30	ECU-ACC	10 A	電動ミラー、ETC、エアコン、オーディオシステム、ナビゲーションシステム

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 276)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球 (バルブ) を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■**車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■**パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて**

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

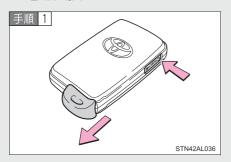
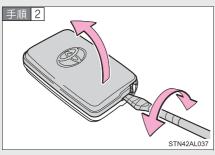
■ 電池交換のしかた

手順 1

STN42AL036

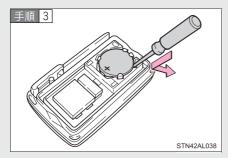
メカニカルキーを抜く

手順 2

STN42AL037

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3

STN42AL038

消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋ 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

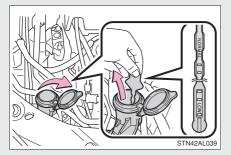
注意

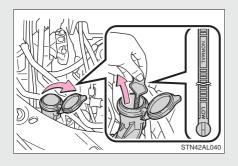
■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

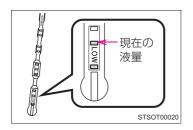
- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

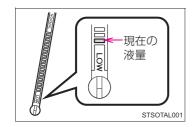
ウォッシャー液の補給

タイプ A

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充する

タイプ B

知識

■ゲージの使い方

タイプ A

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

タイプ B

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

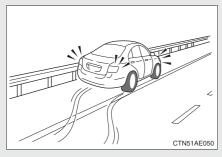
トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 306）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

● 同乗者を避難させる

● 車両の50 m以上後方に発炎筒（→P. 307）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

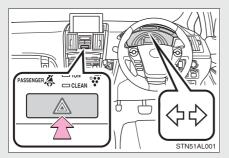
● その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯

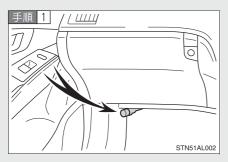
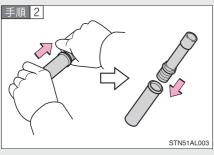
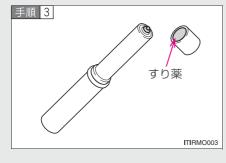
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

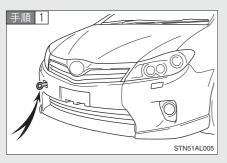
けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者に依頼ください。

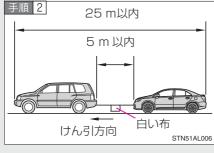
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

次の場合はパーキングロックにより、前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。
けん引を行う前に、トヨタ販売店へご連絡ください。

・ スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき
・ P ポジション制御システムに異常があるとき（→P. 320）
・ 補機バッテリーがあがったとき

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

けん引フック取り付け穴は運転席側にあります。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー”スイッチを ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

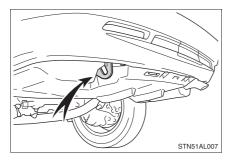
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

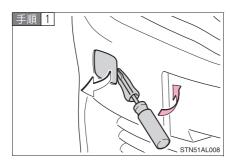
● READY インジケーターが点灯しているのに車が動かない

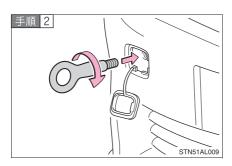
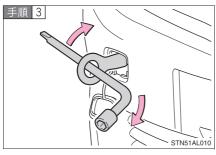
● 異常な音がする

緊急時のけん引

STN51AL007

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付けかた

STN51AL008

手順 1 マイナスドライバーを使って運転席側のフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■補機バッテリーがあがったとき

シフトポジションが P で、補機バッテリーがあがった場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 336

⚠ 警告

■車両を運搬するときは

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “パワー” スイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックがかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■車の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!) （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→P. 323

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常

警告灯	警告灯名・警告内容
	高水温警告灯 ・点滅：エンジンオーバーヒート気味です、注意して走行してください。 ・点灯：エンジンオーバーヒートです。車両を止めてください。 →P. 356

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(黄色)	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・ハイブリッドトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS の異常

警告灯	警告灯名・警告内容
PCS （点滅）	**PCS 警告灯*** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→P. 214） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。（→P. 215） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。（→P. 323）
AFS OFF （点滅）	**AFS OFF 表示灯*** AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
	ヘッドライトオートレベリング警告灯 自動光軸調整システムの異常
	スリップ表示灯 ・S-VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
LKA （点滅）	**LKA 表示灯*** レーンキーピングアシストの異常
（点滅）	**クルーズコントロール表示灯** クルーズコントロールシステムの異常
（点滅）	**レーダークルーズコントロール表示灯*** レーダークルーズコントロールシステムの異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 **(警告ブザー)** ※1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約8L以下になった	燃料を補給する
(運転席)	**運転席シートベルト非着用警告灯** **(警告ブザー)** ※2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
(助手席)	**助手席シートベルト非着用警告灯** **(警告ブザー)** ※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 319

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
→P. 323

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約20 km/h以上になると警告ブザーが30秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯 / 警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■速度警報ブザーについて

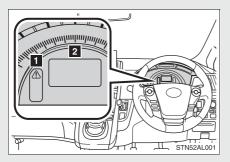
速度警報ブザーを設定することができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。(→P. 371)

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** 警告ブザーが鳴ります。 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。
ハイブリッド システムチェック	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
Pロック異常 駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて下さい	**P ポジション制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。また、“パワー” スイッチを OFF にできなくなることがあります。この場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
ヘッドランプ システムチェック （点滅）	**LED ヘッドライトシステムの異常＊** 警告ブザーが鳴ります。
PCS システムチェック PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ソナー システム チェック	**クリアランスソナー＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 異常のあるソナーが点滅して表示されます。
クルーズ システムチェック （点滅）	**レーダークルーズコントロールシステム＊の定速制御モード異常** 警告ブザーが鳴ります。 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
クルーズ システムチェック （点滅）	**レーダークルーズコントロールシステム＊の車間制御モード異常** 警告ブザーが鳴ります。 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック	**ナビ・ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
パワーステアリング システムチェック	**パワーステアリングシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない “パワー”スイッチが ON モードのとき、開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ボンネット	**ボンネットが確実に閉まっていない** “パワー”スイッチが ON モードのとき、表示されます。	ボンネットを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
トランク	**トランクが確実に閉まっていない** “パワー”スイッチが ON モードのとき、表示されます。	トランクを閉める
ムーンルーフが開いています (点滅)	**ムーンルーフ＊が確実に閉まっていない状態で“パワー”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
PCS 現在使用できません PCS	**PCS（プリクラッシュセーフティシステムまたは後方プリクラッシュセーフティシステム）＊が現在機能していない** ・グリル、後方の専用カバーまたはセンサーが汚れている状態 ・システムの過熱保護のため一時的に機能していない状態	・グリル、後方の専用カバー（→P. 216，221）またはセンサーの汚れを取り除く ・通常温度になるまでしばらく待つ

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ソナー汚れ	**クリアランスソナー＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。異常のあるソナーと車両マークが点滅して表示されます。	汚れおよび氷などを取り除く
レーダー汚れ 清掃必要 （点滅）	**レーダークルーズコントロール＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
クルーズ 現在使用できません （点滅）	**レーダークルーズコントロール＊の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	・走行モードを通常走行モードにかえる ・ワイパーを止めるか、オートまたは低速作動にかえる
ブレーキ！ PCS（点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ＊が作動している（プリクラッシュセーフティシステム＊）** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速する

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
100 km/h （点滅）	**（レーダークルーズコントロール＊の車間制御中）衝突の危険性** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
LKA システムチェック LKA（点滅）	**LKA ＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。	安全な場所に停止後、ハイブリッドシステムを始動し直し、レーンキーピングアシストを再起動する
LKA 現在使用できません LKA	**LKA ＊の一時停止** 警告ブザーが鳴ります。 ・白線認識カメラが作動範囲外の高温状態 ・パワーステアリングシステムの作動制限中	レーンキーピングアシストを再起動する
100 km/h	**（LKA ＊制御中）車線離脱警報** 警告ブザーが鳴ります。白線またはハンドルマークが点滅して表示されます。	道路状況を確認して安全なハンドル操作で車両を車線内にもどす
ハイブリッドシステム過熱	**ハイブリッドシステムの過熱** 警告ブザーが鳴ります。	車両を停車して点検する （→P. 356）

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
駆動用電池充電量低下 Nレンジ以外で 充電します (点滅)	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが断続して鳴ります。	シフトポジションがNの状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションをPにする
駆動用電池保護モード Pレンジで 再始動して下さい (点滅)	**長時間シフトポジションがNになっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが連続して鳴ります。	車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する
駐車時はPレンジに 入れて下さい (点滅)	**ハイブリッドシステムが始動している状態でシフトポジションがP以外のとき、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが連続して鳴ります。	シフトポジションをPにする
Nレンジです (点滅)	**シフトポジションがNのとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが連続して鳴ります。	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにする

警告メッセージ	警告内容	対処方法
EVモードに現在切替できません	**EV ドライブモードに切りかえできない状況にいる*** 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中 / 電池充電不足 /EV 速度域超過 / アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する
EVモードが解除されました EV（3 回点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された※** 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足 /EV 速度域超過 / アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	しばらく走行する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 149 を参照してください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告は対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
給油して下さい	燃料の残量が 約８Ｌ以下になった	約 12 Ｌ以上燃料を補給する (→P. 98)
航続可能距離 残りわずかです	燃料の残量が 約６Ｌ以下になった※	

※ マルチインフォメーションディスプレイに航続可能距離が表示されている場合、メッセージが表示されます。

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認下さい	**補機バッテリーが充電不足**	**数秒後※に表示が消えたときは** 約１５分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
		表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→P. 350）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約６秒間表示されます。

⚠ 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する
1 回	3 回	キーが 見つかりません (点滅)	“パワー” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトポジションが P の状態で “パワー” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー” スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい (交互に表示) (点滅)	“パワー”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが見つかりません (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい (点滅)	シフトポジションが P 以外の状態で、“パワー”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトポジションを P にする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトポジションが P 以外の状態で“パワー”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトポジションを P にする ・電子キーを車内に入れる
1 回	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
なし	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでパワースイッチに触れて下さい （点滅）	・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチにふれる
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい （点滅）	シフトポジションが N の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている	シフトポジションを P に入れてからハイブリッドシステムを始動させる
なし	なし	バッテリー保護の為自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 298）

<table>
<tr><th>車内警告ブザー</th><th>車外警告ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">なし</td><td rowspan="2">始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押して下さい
（点滅）</td><td>“パワー”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずに“パワー”スイッチをアクセサリーモードに 2 回した</td><td>ブレーキを踏んで“パワー”スイッチを押す</td></tr>
<tr><td>電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で（→P. 348）“パワー”スイッチに電子キーをふれた</td><td>ブザーが鳴ってから 10 秒以内に“パワー”スイッチを押す</td></tr>
</table>

知識

■レーダークルーズコントロール＊の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常に低速で走行しているとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルが踏まれたとき

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

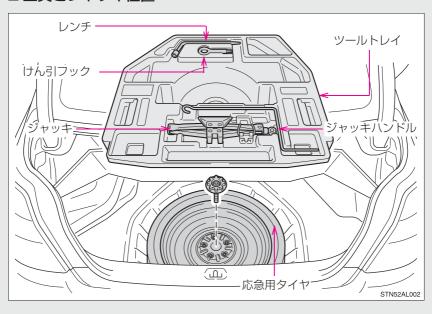
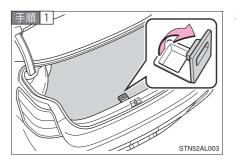
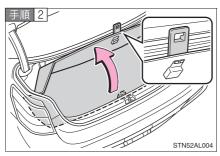
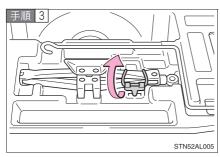
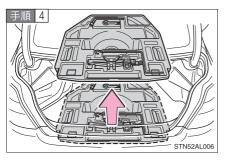
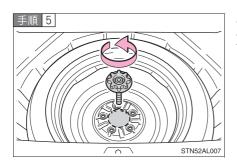
パンクしたときは

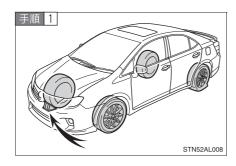
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明は P. 264 を参照ください)

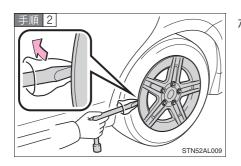
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

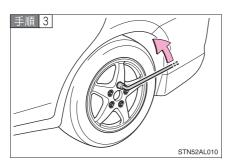
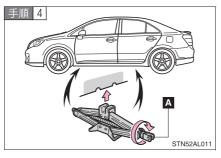
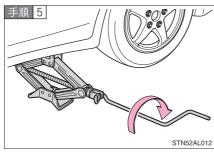
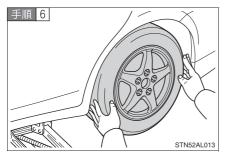
■ 工具とジャッキ位置

ジャッキと応急用タイヤの取り出し方

ラゲージマットを持ち上げる

フックを使ってラゲージマットを固定する

ジャッキの留め具を取りはずす

ツールトレイを取り出す

留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

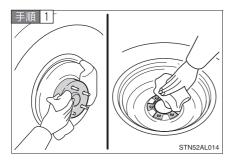
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

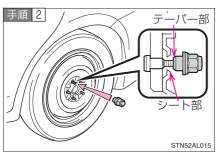
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす。※

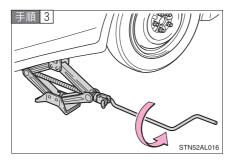
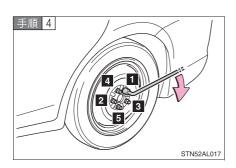
※ 16 インチアルミホイールのみ

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

応急用タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす。

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 368）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

警告

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- S-VSC
- TRC
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- レーンキーピングアシスト*
- AFS *
- クリアランスソナー*
- プリクラッシュセーフティシステム*
- ナビゲーションシステム
- バックガイドモニター

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 267）

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P. 144）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

● 電子キーが正常に働いていない可能性があります。＊（→P. 348）

● 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。

● イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。＊（→P. 102）

● P ポジション制御システムに異常がある可能性があります。＊（→P. 147，320）

● 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P. 289）

＊ P ポジションから切りかえることができない可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 350）

● 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 350）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 “パワー”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏んで“パワー”スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

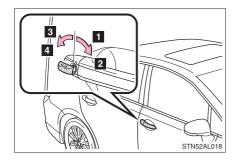
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 44)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 52）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、キー連動操作

ドア

メカニカルキー（→P. 44）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

1 全ドア施錠

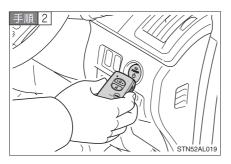
2 ドアガラス・ムーンルーフが閉まる（まわし続ける）*

3 全ドア解錠

4 ドアガラス・ムーンルーフが開く（まわし続ける）*

*：トヨタ販売店での設定が必要です。

モードの切りかえ、ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 ブレーキペダルを踏む

手順 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、“パワー”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“パワー”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“パワー”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切りかえることができます。（→P. 145）

ハイブリッドシステム始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“パワー”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

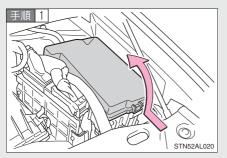
通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして“パワー”スイッチを押します。

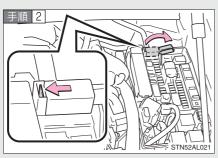
■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 298）

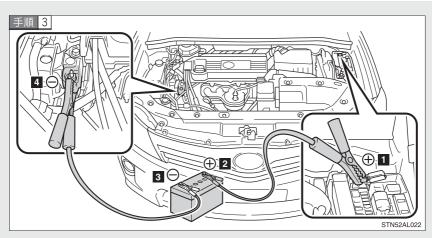
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

ボンネットを開けて、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

手順 3

ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー”スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 6 READY インジケーターが点灯することを確認する。

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

手順 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

“パワー”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項

- ●補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠･施錠を実施してください。
- ●補機バッテリーがあがったあとの、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。２回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてからおこなってください。
補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチ状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションが P の状態で補機バッテリーがあがった場合は、シフトポジション P から切りかえることができません。この場合パーキングロックにより前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させ、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションがすべてのポジションに切りかえられることを確認してください。

■補機バッテリーについて

→P. 269

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
  また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

⚠ 警告

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P. 270

⚠ 注意

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯が点滅または点灯：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順にしたがってご対処ください。

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

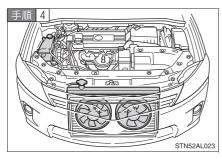
蒸気が出ている場合：
ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する

蒸気が出ていない場合：
READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

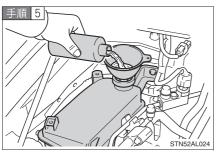
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
高水温警告灯が消灯してからハイブリッドシステムを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4 STN52AL023

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 274）

手順 5 STN52AL024

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

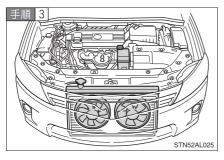
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

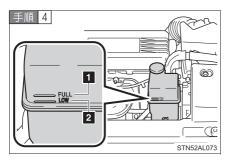
早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

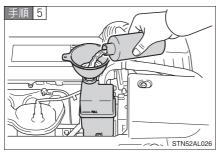
手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 ハイブリッドシステムを停止し（“パワー” スイッチを 1 回押し）、ボンネットを開ける

手順 3 STN52AL025

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

パワーコントロールユニットの冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”(上限)と“LOW”(下限)の間にあるかを点検する

1 “FULL”(上限)

2 “LOW”(下限)

パワーコントロールユニットの冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

手順 6 ハイブリッドシステムを再始動する(ブレーキペダルを踏みながら“パワー”スイッチを1回押す)。「ハイブリッドシステム過熱」が消えていることを確認する
消えていない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

オーバーヒートのとき、お車に次のような症状が現れます。

- 高水温警告灯が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示された

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●“パワー”スイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。
- ●ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●ハイブリッドシステムおよびラジエーター･補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- ●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■シフトポジションを切りかえるときは

ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

リジェクト機能が働き、シフトポジションの切りかえを無効にする場合や、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■**ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトポジションを N にする。

シフトポジションが N になった場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する。

シフトポジションが N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

“パワー”スイッチを 3 秒以上押し続けてハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正オイル・液類以外を使用される場合は、トヨタ純正オイル・液類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	55

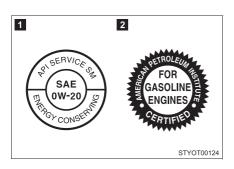
エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20※2 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2AZ-FXE	4.1	4.3

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

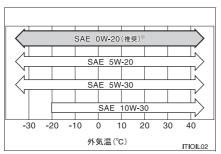
※2 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	インバーター
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	7.3	2.9

トランスミッション

銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	4.1

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	82

※1 ハイブリッドシステムが作動している状態で、196 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ※2 数	8 ～ 11

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）		
ヘッドランプクリーナー非装着車	寒冷地仕様車を除く	2.5
	寒冷地仕様車	4.8
ヘッドランプクリーナー装着車		

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm2)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92H	16 × 6 1/2J	230 (2.3)	210 (2.1)
	215/45R18 89W	18 × 7J	250 (2.5)	230 (2.3)
応急用タイヤ	T135/70D17 102M	17 × 4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト（ディスチャージヘッドライト装着車） 　ハイビーム（バルブタイプ：HB3) 　ロービーム	 60 35
	ヘッドライト（LED ヘッドライト装着車） 　ハイビーム（バルブタイプ：HB3) 　ロービーム	 60 LED ※
	車幅灯	5
	フロントフォグライト (バルブタイプ：H11)	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	21
	リヤフォグライト	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	バニティライト	8
	フロントインテリアライト / パーソナルライト	8
	リヤインテリアライト	8
	リモートタッチ照明	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	トランクライト	3.8
	足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes （発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
SAI	AZK10	2AZ-FXE (2.4L ガソリン)	2JM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、ワイヤレスリモコン、ドライビングポジションメモリースイッチ、マルチインフォメーションスイッチや、ナビゲーションシステムの画面操作※により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

※ ナビゲーションシステム画面でのカスタマイズ設定操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

ワイヤレスリモコンで車両カスタマイズ設定をする

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。切り替えの操作は車外（車両から 1m 以内）で行ってください。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする。

手順 2 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、🔒 ボタンと同時に 🔓 または 🚗 のいずれかを約５秒押し続ける。

操作を行うごとに次の表のように設定が切り替ります。（続けて切り替え操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、５秒以上間隔をあけてから手順２を行ってください。）

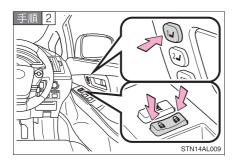
マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのフロントドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラーム設定されます。）
オートアラームが作動し警告が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 103）

ドライビングポジションメモリースイッチで車両カスタマイズ設定をする

ドアの解錠とドライビングポジションメモリーを連動させるには、お好みのポジションをあらかじめドライビングポジションメモリースイッチの 1 または 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯してください。車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 シフトポジションを P にし、運転席ドアを閉めて、“パワー”スイッチを ON モードにする。

1 または 2 のうち連動させたいボタンを押してポジションを呼び出す。呼び出したら、そのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “パワー”スイッチを ON モードにし、運転席ドアを閉める

手順 2 “SET”ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

マルチインフォメーションスイッチで車両カスタマイズ設定をする

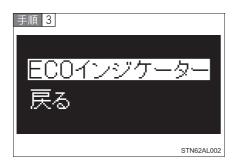
マルチインフォメーションスイッチを操作して、お車の装備の設定を変更することができます。

機能の設定変更を行う前に、安全に操作することができる場所に停車して、パーキングブレーキをしっかりとかけ、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P にする。

DISP ボタンを押して、マルチインフォメーションディスプレイに「セッティング」画面を表示する(→P. 169)

手順 2 DISP ボタンを押し続ける

設定項目の選択画面が表示されます。

STN62AL002

「ECO インジケーター」を選択し、DISP ボタンを押し続ける

DISP ボタンを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。

STN62AL003

設定を変更する

DISPボタンを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP ボタンを押し続けると、設定が変更され、手順 3 の画面にもどります。

STN62AL004

「戻る」を選択して DISP ボタンを押し続ける

手順 1 の画面にもどります。

車両カスタマイズ設定一覧

1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
2 車両のスイッチ操作で設定変更可能
（それぞれの設定操作については P. 371 を参照ください。）
3 トヨタ販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ドアロック（→P. 60, 348）	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	ー	○
	車速感応式自動ドアロック	あり	なし	○	ー	○
	シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	ー	○
	シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	ー	○
	運転席を開けたときの全ドア自動解錠	なし	あり	○	ー	○
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック（→P. 47, 58）	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	ー	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	ー	ー	○
	作動の合図音量（ブザー音量調整）	レベル 7	OFF ～ レベル 6	○	ー	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	ー	ー	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 47)	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	○	○
	スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし	○	ー	○
	連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	ー	ー	○
ワイヤレスドアロック (→P. 58)	ワイヤレスの作動	あり	なし	ー	ー	○
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	ー	○
	トランクを開ける	長押(短)	短押し	ー	ー	○
			2 回押し	ー	ー	○
			長押(長)	ー	ー	○
			禁止	ー	ー	○
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 172)	ライトセンサーの感度調整	標準(0)	-2 ～ 2	○	ー	○
	暗さを検知してからライトを点灯するまでの時間	標準	長め	ー	ー	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
イルミネーション（→P. 230）	消灯までの時間	15 秒	OFF 7.5 秒 30 秒	○	―	○
	“パワー”スイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
	足元照明の点灯	あり	なし	―	―	○
	リモートタッチ照明の点灯	あり	なし	―	―	○
メーター (→P. 161)	メーターなどの明るさを、周囲にあわせ自動減光するセンサーの感度	標準	-2 ～ 2	○	―	○
	自動減光したメーターなどの明るさを元にもどすセンサーの感度	標準	-2 ～ 2	○	―	○
	速度警告ブザー	なし	あり	―	―	○
エコドライブモード (→P. 154)	エコドライブモード時に暖房／冷房の作動を抑える	する	しない	―	―	○
フロントシート (→P. 67)	降車時の運転席シート移動量調節 *	少なめ	OFF 標準	○	―	○

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
エアコン（ナビゲーションシステム取扱説明書参照）	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	―	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	―	○
エコドライブインジケーターランプ（→P. 168）	エコドライブインジケーターランプの作動	ON	OFF	―	○	○
クリアランスソナー*（ナビゲーションシステム取扱書参照）	ブザー音量設定（ブザー音量）	3（中）	1（小）～5（大）	○	―	○
	ソナー表示（ノーマルクリソナ時表示の切りかえ）	すべて表示	ソナー表示なし	○	―	○
	画面表示 ブザータイミング（リヤセンターセンサー報知距離）	遠い	近い	○	―	○
	障害物との距離が 3 秒間以上変化しないときの合図（ブザー）	あり	なし	―	―	○
	シフトポジションを N にしたときの合図（ブザー）	あり	なし	―	―	○
	シフトポジションが P または R 以外のときに作動するセンサーの変更	フロントコーナー	リヤセンターリヤコーナー	―	―	○

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
パワーウインドウ（→P. 90）	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○
ドライビングポジションメモリー*（→P. 72）	スマートエントリー&スタートシステムでドアを開けたときのドライビングポジションの呼び出し対象ドアの選択	運転席	全席	—	○	○
ムーンルーフ*（→P. 93）	ドアキー連動開閉機能※	あり	なし	—	—	○
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能※	あり	なし	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
リヤサンシェード*（→P. 248）	リバース連動機能が作動するまでの時間	0.7 秒	OFF	—	—	○
			0 秒	—	—	○
			0.9 秒	—	—	○
			1.2 秒	—	—	○
	リバース連動機能	あり	なし	—	—	○
ドアミラー（→P. 85）	オート電動格納作動*	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
			“パワー”スイッチと連動			

※：ワイヤレスリモコンまたはドアキーでのパワーウインドウ開閉が可能なときのみ設定できます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトポジションをＰ以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトポジションをＰ以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」･「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

■次の状態になるとマルチインフォメーションスイッチ操作でのカスタマイズモードが自動的に終了します。

●カスタマイズモード画面表示後に警告メッセージが表示された。

●“パワー”スイッチが OFF になった。

・カスタマイズモード画面表示中に走行し始めた。

警告

■カスタマイズを行うときの警告

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**カスタマイズを行うときは**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

さくいん

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- エアコン
- リヤウインドウデフォッガー
- ミラーヒーター
- バックガイドモニター
- ワイドビューフロントモニター
- クリアランスソナー
- ETC システム

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

く

け

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

ふ

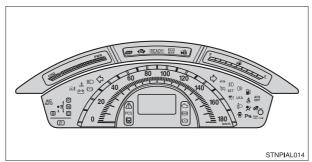
へ

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

症状	ページ	参照
タイヤがパンクした	P. 336	パンクしたときは
ハイブリッドシステムが始動しない	P. 345	ハイブリッドシステムが始動できないときは
	P. 102	イモビライザーシステム
	P. 350	補機バッテリーがあがったときは
高水温警告灯が点滅または点灯した	P. 356	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 356	オーバーヒートしたときは
キーをなくした	P. 347	キーを無くしたときは
補機バッテリーがあがった	P. 350	補機バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 47 P. 58 P. 60	ドア
ホーンが鳴り出した	P. 103	オートアラーム
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 360	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 314	警告灯がついたときは

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯（赤色）
P. 314

充電警告灯
P. 314

高水温警告灯
P. 315

電子制御ブレーキ警告灯（黄色）
P. 315

エンジン警告灯
P. 315

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
P. 315

ABS &ブレーキアシスト警告灯
P. 315

パワーステアリング警告灯
P. 315

PCS 警告灯
P. 316

AFS OFF 表示灯
P. 316

ヘッドライトオートレベリング警告灯
P. 316

スリップ表示灯
P. 316

LKA 表示灯
P. 316

クルーズコントロール表示灯
P. 316

レーダークルーズコントロール表示灯
P. 316

半ドア警告灯
P. 317

燃料残量警告灯
P. 317

運転席シートベルト非着用警告灯
P. 317

助手席シートベルト非着用警告灯
P. 317

マスターウォーニングと警告メッセージ
P. 317

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 314）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 319）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 51，319
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	
	ワイヤレスリモコンでドアを施錠したとき	P. 58
	シフトチェンジ操作を行ったとき	P. 154
走行中	シフトポジションを R にしたとき	P. 155
	シフトチェンジ操作を行ったとき	P. 154
	ブレーキを踏んだとき	P. 139

ハイブリッドさくいん

ハイブリッドシステムについての解説

ハイブリッドシステムについての注意事項

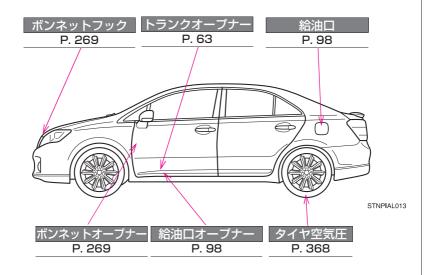
運転のしかた

環境に配慮した経済的な運転

事故が起きたときは

ハイブリッド特有の説明がある項目

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 （参考値）	55L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 364
タイヤが冷えているときの空気圧	16 インチタイヤ 　前輪：230 (2.3) kPa (kg/cm^2) 　後輪：210 (2.1) kPa (kg/cm^2) 18 インチタイヤ 　前輪：250 (2.5) kPa (kg/cm^2) 　後輪：230 (2.3) kPa (kg/cm^2) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時：4.1 L オイルとフィルター交換時：4.3 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM 10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL、EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30(API SL、EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ト-62

M 75045
01999-75045
IS-2011年10月25日
2011年11月 1 日 初版
S A I